

文化財調査報告書



前橋市教育委員会

平成12年度

第31集

文化財調査報告書



平成12年度

前橋市教育委員会

第 31 集

序

今年は新世紀の幕開けの年です。21世紀を迎え、ますます先を見通した文化財保護行政が求められています。文化財は、過去の遺産としてだけの側面で捉えられてしまう傾向にありますが、過去・現在そして未来をつなぐ貴重な文化遺産なのです。過去を正しく見つめ、現在に生かし、どう未来へ引き継ぐかは、私たちにとって大きな課題です。文化財をただ保存するだけでなく、どのように活用するかが、今問われているのです。

このような時代の背景を踏まえて、本市では、大室公園史跡整備事業を進めています。大室公園に4基ある国指定史跡の古墳の内、昨年の後二子古墳に続き、中二子古墳の整備が完了し、一般公開されています。多くの見学者が訪れ、古墳文化の一端に触れています。是非とも市民の皆様が現地を訪れ、これらの古墳を通して、古代人の息吹を肌で感じ取られることを願っております。

近年、各種開発事業の進展にともない、市内でも埋蔵文化財の調査が急増しております。平成12年度も、大屋敷遺跡VIをはじめとする多くの発掘調査が行われ、大きな成果をあげることができました。

この他にも、文化財の調査、整備、保護管理、活用などの事業を行ってまいりました。これらの事業概要をまとめた本書が、前橋の豊かな歴史と文化を学ぶ一助となり、本市文化財保護行政についての理解を深める機会となれば幸いです。

今後も市民の皆様と共に、文化財保護を通して、市民文化の醸成に努めていく所存でありますので、一層のご理解ご協力を賜りたいと存じます。

最後になりましたが、これらの諸事業を進めるにあたり、ご指導ご協力をいただいた関係各位、並びに諸機関に深く感謝申し上げます。

平成13年9月

前橋市教育委員会

教育長 桜井直紀

目 次

序

I 文化財調査委員による調査	1
龍藏寺調査	1
樹木調査・前橋カトリック教会聖堂	3
II 文化財調査	4
刀剣の調査（第2年次）	4
III 文化財保護事業	10
1 保護管理運営事業	10
2 整備事業	12
3 普及事業	14
4 埋蔵文化財発掘調査事業	16
5 遺跡台帳整備事業	29
6 大室公園史跡整備事業	30

あとがき

I 文化財調査委員による調査

●龍藏寺調査

龍藏寺は前橋市龍藏寺町68に所在する天台宗の名刹で、青柳山談義堂院と号し、阿弥陀如来をまつるとともに、元三師をまつり、青柳大師として知られている。龍藏寺は天台宗関東八箇談林の一つであり、僧侶を教育・養成する寺院であったため、多くの教義書などを所蔵している。これらを、平成12年11月1日、前橋市文化財調査委員により悉皆調査を実施した。調査の概要は以下のとおりである。

龍藏寺所蔵教義書等目録

カード番号	書名	年代	形態	数量	備考
1	止觀見聞 上中下	萬治二己亥歲		3	
2	翻譯名義集 卷一～二十	寛文九己酉年		10分冊	
3	法華文句隨聞記 ～十三	寛文九己酉年		12	十一が欠
4	禪門草 上中下	天和壬戌年		3	
5	法界次第初門	天和改之年明 歲次壬戌	木版本	三卷の内	
6	雜鈔經玄疏 上中下	貞享丙寅年		3	
7	普惠現驗報應編 卷一～十	貞享四年歲在丁卯		5分冊	
8	法華玄義節要 上下	貞享丁卯		2	
9	寂照堂谷齋集	元祿二年歲在己巳	木版本	10	
10	大乘起信論	元祿二己巳年	木版本	2	
11	菩薩戒經義疏書本 乾坤	元祿三年庚午之秋	木版本	2	天台宗の基本の教科書のようなもの (青柳興賢藏)
12	"	"	"	2	
13	支那撰述 四教義集註	元祿八年	木版本	3	
14	天台四教義集註 上下	元祿八年乙亥	木版本	2	
15	大乘起信論義記	元祿己卯歲	木版本	4	
16	四大師傳記	宝永甲申秋	木版本	5	
17	八要直解	宝永二乙酉年		4	大乘百法明門論直解 天親菩薩造と記されている
18	天台菩薩戒疏順正記書本	宝永六年		4	
19	法華玄義節要 上下	享保七壬寅仲夏		2	
20	台宗二百題	享保八癸卯	木版本	15	
21	菩薩戒經書註集註 卷一～八	享保九年辰年	木版本	8	
22	天台四經義直解	享保甲辰之年	木版本	3	(青柳興恵所蔵)
23	雜鈔經疏證略記	享保十三戊申	和本	10	
24	漢和夷俗事編總目錄	享保十三戊申	木版本	6	
25	四明十義書 乾坤	元文二丁巳年		2	
26	天台四教義直解	元文四年		4	
27	四明十義書	元文丙辰		1	
28	雜鈔經疏記 上中下	元文四年己未		4	
29	中庸解 乾坤	寶曆三年癸酉	木版本	2	
30	圓成詒謀 上中下	明和四年丁亥	木版本	3	一乘比丘圓成詒流著 廬山寺藏版
31	東江先生書唐詩選	天明四年甲辰	木版本	3	江戸の書家沢田東江の書を版本に模倣したもの
32	慈惠 両大師傳記	寛政元年己酉	木版本	5	東叡山寛永寺元三大師縁起(絵入り)
33	實字解 天地人	寛政三年亥春	木版本	3	皆川淇園先生著
34	雙身毘沙門雜論釋 上下	寛政八年丙辰	写本	3	
35	周易翼傳	文政二年己卯	木版本	3	井上鶴洲著
36	金光明文句記書本 卷一～八	天保三年壬辰年		8	
37	金光明玄義文句科	天保三年壬辰歲		1	比叡山 止観院藏版
38	支那撰述 教觀樹宗書本 上下	天保四年己巳年	木版本	2	東叡山藏版

39	金剛 講本爾鈔 上下	天保四癸巳年		2	叡峯千葉院藏版
40	須弥界異向譜	天保十四年癸卯	木版本	1	
41	助字詳解	弘化三年丙午		3	
42	觀音義疏記書本	弘化三年丙午	木版本	5	「天台沙門實東誌」として刊行の巻回が記されている。
43	天台四教義山賞	嘉永元戊申	木版本	3	慧澄和尚著
44	摩訶止觀輔行講義 一~十	嘉永二年己酉		10	東叡山藏本
45	四教儀集註半字談	嘉永己酉	木版本	4	慧澄和尚著 全5冊の内4冊 5欠
46	法華玄義釈量講義	嘉永二年己酉	木版本	10	慧澄和尚著
47	天台四教義	嘉永四年辛亥再刻		1	
48	法華文句記講義	嘉永五年壬子	木版本	15	慧澄和尚著
49	弘法大師念佛口傳集	元治元甲子		1	
50	歡喜天秘要鈔 天地	明治六年癸酉	写本	2	
51	大聖歡喜天秘密軌 完	明治十年丁丑	写本	1	
52	正統 文草軌範講義	明治十一戊寅	木版本	6	森立之著
53	冠註傍解 菩薩戒經義疏校本	明治二十一年	木版本	6	義水忍著
54	光明經 乾坤	明治二十四年		4	
55	訓点校正 妙法蓮華經序品	明治二十四年		4	
56	增補涅槃 有宗七十五法記	明治二十六年	木版本	3	
57	大乘起信論義記	明治二十七年	木版本	3	山本巖藏僧正著
58	慧頭観心夢鈔 上中下	明治三十七年	木版本	3	小山惠榮編撰
59	教史綱要教觀鈔要 止觀大乘密密要提要	大正十四年	写本	1	天台宗の僧となる人々の基本学習をまとめたもの。
60	解説 梵文般若心経諸尊種字及卒部婆等	昭和五年	写本	1	大宮孝潤講述を比叡山專修院で印刷したもので梵字についての解説書。
61	法華文句記書本	乙卯季春	木版本	30	
62	觀音玄義書本	近世中期	木版本	5	
63	觀音玄義記書本 卷一~四	辛酉八月	木版本	4	
64	觀音義疏記書本 卷一~四	近世	木版本	4	
65	觀音義疏記鈔 卷三、四		木版本	2	
66	大聖歡喜天心秘密要鈔目錄	近世後期	写本	1	「大聖歡喜天秘密軌」と同類の写本で歡喜天に関する様々な秘要を記してある。
67	天台四教儀科文	近世後期	木版本	1	教義の流れを示す
68	豐山藏版 秘密儀軌	江戸後期	木版本	10	
69	四教義疏體書	近世末期~明治初期		1	貝塚の著書した佛法のメモ帳ともいえるものである。
70	校刻補訂續軌範詳林 一~四		木版本	2分冊	
71	金光明文句記書本卷			8	
72	秘密儀軌			10	
73	秘抄拔次第 上中下		写本	3	
74	因像抜書		写本	2	大自在天、千手觀音、大日如來、歡喜天尊、十一面觀音、阿彌陀如來、伎芸天女他
75	觀音玄義 真性錄		写本	4	
76	鐵柱亭醫事小言			7	南隣原先生口授
77	法華玄義釋義書本			20	比叡山止觀院藏版
78	玄義講教記 卷四~七 下			1	
79	金光明經 卷一之四終			1	
80	摩訶止觀輔行書本			20	
81	止觀廣教記			2	天台沙門 法顯述

※今回の悉昔調査では、すべてを調査するには至らなかった。

●樹木調査

市内にある貴重な樹木・巨樹などについて基礎的なデータを整備するために、平成12年10月19日に調査を実施した。調査の概要は以下のとおりである。

樹木調査結果概要一覧

No.	名称（通称）	所在地	樹高	目通り	樹齢	備考
1	荻窪神社のイロハカエデ	荻窪町甲187-1 荻窪神社	16.5m	2.2m	約200年	10m高付近、枝が折れた跡がある。
2	荻窪神社のイチョウ	荻窪町甲187-1 荻窪神社	24.5m	3.0m	約200年	下枝6本途中切断してある。
3	藤井家のケヤキ	北代田町212	21.5m	3.8m	約400年	根元北側・主幹中央部はうろくなっている。南橋村誌に載っている樹木。
4	臨江閣のヒノキ	大手町三丁目-15 臨江閣	25.0m	3.05m	約300年	主幹2m高より二股になっている。このヒノキに匹敵するようなヒノキ7本ある。
5	臨江閣のユズリハ	大手町三丁目-15 臨江閣	17.0m	1.4m		ユズリハのなかでは巨樹といえる。
6	長見寺のクスノキ	大友町二丁目18-4 長見寺	21.5m	3.55m	約200年	樹幹2.5m高に傷があるが治癒している。
7	長見寺のモッコク	大友町二丁目18-4 長見寺	16.0m	1.8m		モッコクのなかでは巨樹である。
8	上川淵小学校のクスノキ	朝倉町446 上川淵小学校	17.0m	3.7m		明治36年に植樹。
9	日枝神社のシラカシ	山王町496 日枝神社	20.0m	2.6m	約200年	主幹にウロが入っている。この他に2本シラカシがある。
10	駒形長寿観音堂のヤツツバキ	駒形町476-7 駒形長寿観音堂	7.0m	5本の計 1.41m	約150年	地上高1.5mより5本に分岐している。

●前橋カトリック教会聖堂の調査

前橋市大手町2-14-6に所在する前橋カトリック教会聖堂が、登録有形文化財登録基準を満たした建造物なのかどうかを判断するため、平成13年1月24日に調査した。

前橋カトリック教会聖堂の概要

建設年代	昭和7年
構造・形式及び大きさ	鉄筋コンクリート造 一部3階建て スレート葺 建築面積375m ²
特徴	ゴシック様式の教会堂建築 双塔形式の教会堂で内部は3廊式 身廊部の簡明な壁面構成や陸屋根状の側廊部などのモダンな取り扱い



聖堂正面



聖堂内部

II 文化財調査

●刀剣の調査

石井昌重氏のご遺族から寄贈された刀剣調査は、平成11年度より始められた。本年度は第2年次で、引き続き東京国立博物館法隆寺宝物室長 原田一敏氏によって調査が平成12年12月21日・22日に進められた。調査結果は以下のとおりである。

刀 銘 濃州閑住人口兼元作
□□□□□永正□年八月日
(金象嵌) ふせないきょう

法量 (単位cm)

刃長 94.4 反り 3.5

元幅 3.1 先幅 1.8

元重 0.7 先重 0.5

鋒長 3.1

形状 鋸造、長寸の刀で、反り高く、中鋒。

鍔 板目に流れ肌交じり白ける。

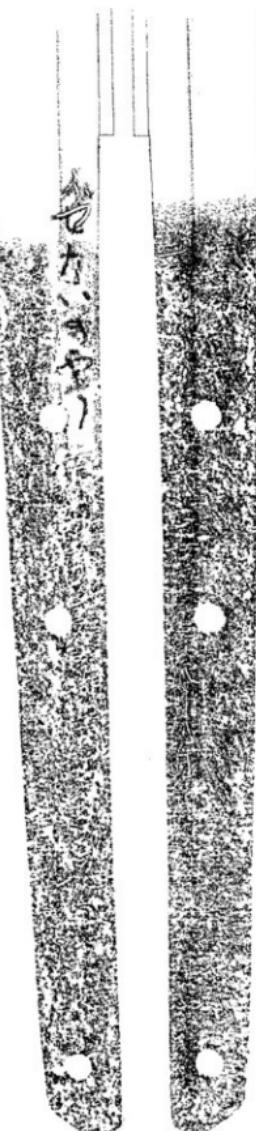
刃文 尖り互の目乱連れ、処々頭の丸い互の目交じり、
總体に足入り砂流しかかり沸つく。

帽子 直ぐに先丸く、強く擣きかける。

茎 生茎、先刃上栗尻、鍔目鷹羽、目釘孔3。

説明 兼元は美濃の閑および赤坂に住した刀工で、同銘
が室町時代末期に数工いる。もっとも有名な者が
孫六兼元で、切れ味のよい刀工として江戸時代に
は高い評価を得ている。この兼元は、それとは別
人であり、しかも銘のきり方が弱く、銘そのもの
にも検討の余地を残す。

押形の縮少率は75%



刀 銘 備前長船住横山祐永

友成五十六代孫

文政十年八月日

法量 (単位cm)

刃長 62.8 反り 1.3

元幅 2.7 先幅 1.9

元重 0.65 先重 0.5

鋒長 3.15

形状 鋸造、舟棟、中鋒。

鍛 小板目綱かくよくつかむ。

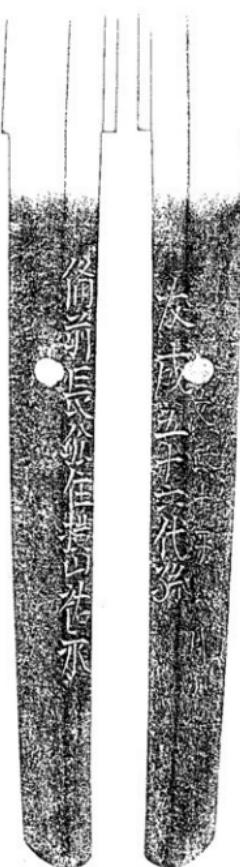
刃文 細い直ぐの焼出しがあり、先は匂出来の丁子乱、

矢筈がかった刃など交じって、総体に高低がある。

帽子 直ぐに丸く返る。

茎 生茎、先刃上栗尻、鍔目筋違、目釘孔1。

説明 横山祐永は、幕末期の備前長船の刀工。薩摩の元平の弟子となった横山祐平の次男で、兄祐盛が祐定家の養子となつたので、父祐平の跡を繼いで、自ら「友成五六代孫」と称した。嘉永4年(1851)没した。匂口のしまつた華やかな丁子乱れの刃文は、祐永の特徴をよく表している。



脇指 銘 備州長船祐永
天保八年二月日

法量 (単位cm)

刃長 38.7 反り 0.7

元幅 2.45 先幅 1.65

元重 0.6 先重 0.45

鋒長 2.8

形状 鎏造、庵棟、反り浅く、中鋒。

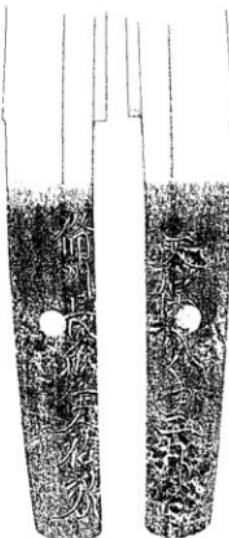
鍔 小板目肌つみ、やや肌立ちごころとなる。

刃文 直ぐに焼出して、丁子乱、重花丁子風の刃交じり、足入り匂口しまる。

帽子 直ぐに丸く返る。

茎 生茎、先浅い栗尻、鍔目切、目釘孔1。

説明 横山祐永は、幕末期の備前長船の刀工。薩摩の元平の弟子となった横山祐平の次男で、兄祐盛が祐定家の養子となつたので、父祐平の跡を継いで、自ら「友成五六代孫」と称した。嘉永4年(1851)没した。匂口のしまつた華やかな丁子乱れの刃文は、祐永の特徴をよく表している。



脇指 銘 (一葉葵紋) 主水正藤原正清
享保十三年八月日

法量 (単位cm)

刃長 43.1 反り 1.2

元幅 3.0 先幅 2.45

元重 0.7 先重 0.6

鋒長 5.4

形状 鎔造、庵棟、大鋒、身巾広く、反り浅い。

鍔 板目に直目交じり、やや肌立ってザングリとし地沸つく。

刃文 浅く大きなのたれ、互の目交じり、足入り砂流しかかり沸つく。

帽子 横手で焼込んで直ぐに先丸く返る。

茎 條角、先入山形、鍔目勝手下り、目釘孔1。

説明 主水正(もんどのしよう)正清は薩摩の刀工。享保6年(1721)、江戸浜離宮において、將軍吉宗の前で作刀し、その功により、銘に一葉葵紋をきることを許され、朝廷からは主水正の官名を受領した。

この刀は、銘の書体が通常の正清とは異なっており、検討の余地を残す。



脇指 金象嵌銘 ニツ胴依土段底入
酒井阿波守所持剣
寛永元年⁹、九月廿七日

法量 (単位cm)

刃長 45.5 反り 1.4

元幅 3.2 先幅 2.7

元重 0.7 先重 0.6

鋒長 5.4

形状 鎔造、庵櫛、身幅広く反り浅く、大鋒。

鍔 板目に空目交じる。

刃文 中直刃調、浅くのたれ、互の目交じり、足入り、
匂深く沸よくつき、砂流しかかる。

帽子 のたれ込み、尖りごころに返る。

茎 生茎、先劍形、鏐目切、目釘孔1。

説明 生茎無銘の脇指で、鍔、沸のよくついたのたれの
刃文、茎の仕立て方などから、肥前忠吉の作と伝
えられている。忠吉は肥前鍋島藩の抱え工で、幕
末まで名跡が継がれている。初代は橋本新左衛門
と称し、慶長元年（1595）に藩命により京の埋忠
明寿の門に学んだ。慶長3年帰国し、佐賀城下で
作刀を行い、元和10年（1624）再び上洛して、武
藏大掾を受領し、名を忠広と改め、寛永9年
(1632)に61歳で没した。

この脇指には、寛永元年、酒井阿波守所持の金
象嵌があり、年代的には初代作にあたる。酒井阿
波守は前橋藩主忠世の子忠行で、元和3年父の遺
領を継いだ。

脇指 銘 肥前国忠吉

法量 (単位cm)

刃長 54.2 反り 0.9

元幅 3.0 先幅 2.0

元重 0.7 先重 0.5

鋒長 3.3

形状 鎔造、庵櫛、中鋒、反り浅い。

鍔 小板目に空目交じり、地沸つく。

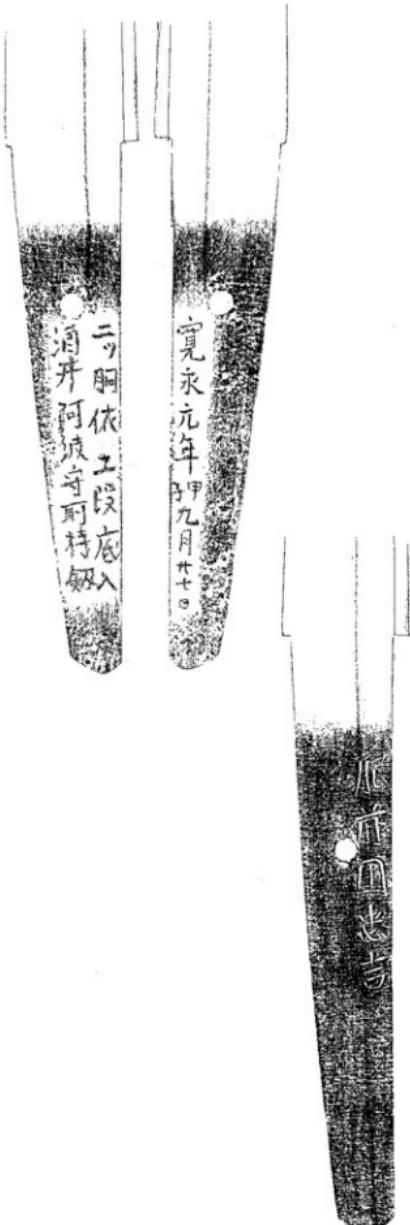
刃文 中直刃、沸よくつく。

帽子 直ぐに小丸。

茎 生茎、先栗尻、鏐目切、目釘孔1。

説明 忠吉は肥前鍋島藩の抱え工で、幕末まで名跡が継
がれている。初代は橋本新左衛門と称し、慶長元
年（1595）に藩命により京の埋忠明寿の門に学ん
だ。慶長3年帰国し、佐賀城下で作刀を行い、元
和10年（1624）再び上洛して、武藏大掾を受領し、
名を忠広と改め、寛永9年（1632）に61歳で没した。
肥前は江戸時代、刀工の数、質とも最も栄えた
た処であり、その礎を築いたのが忠吉である。

この脇指の銘は、作風、銘の書体とも遇例とは
異なっており、検討する余地がある。



脇指 路 備前国住長船与三左衛門尉祐定
天文二年¹⁵³³二月吉日 老年六十六作之

法量 (単位cm)

刃長 51.7 反り 1.6

元幅 2.75 先幅 1.7

元重 0.65 先重 0.4

鉄長 2.8

形状 平造、庵棟、中峰。

鍛 板目に杔目交じる。

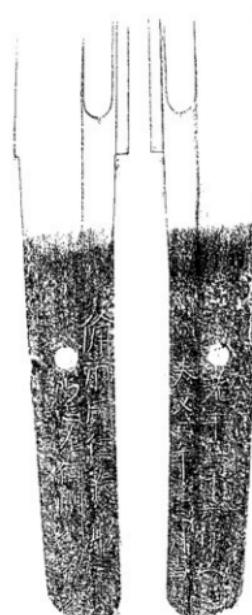
刃文 腹の開いた互の目乱、足入る。

帽子 亂れ込み小丸に返る。

形物 表裏とも棒柄丸止。

茎 生莖、先栗尻、鍔目勝手下り、目釘孔1。

説明 与三左衛門尉定は勝光と並んで、室町時代末期の備前銀治を代表する名工。この時期の刀工と作品を備前と称している。祐定には永正17年(1520)から元亀3年(1572)までの年紀作があり、その間天文20年代に代替わりがあったとみられる。この脇指と同じ銘文をきった脇指がもう一口あり、それと本作を比較すると、銘の書体に相違が見られる。また同時期の与三左衛門尉定の銘文と比較しても異なる点があり、検討すべき余地を残す。



脇指 銘 左行秀鍛之
安政三年二月日

法量 (単位cm)

刃長 41.2 反り 0.8

元幅 4.1

元重 0.95

形状 平造、庵棟、身幅広く、重ね厚く、反り浅くつく。

鍛 小板目よくつむ。

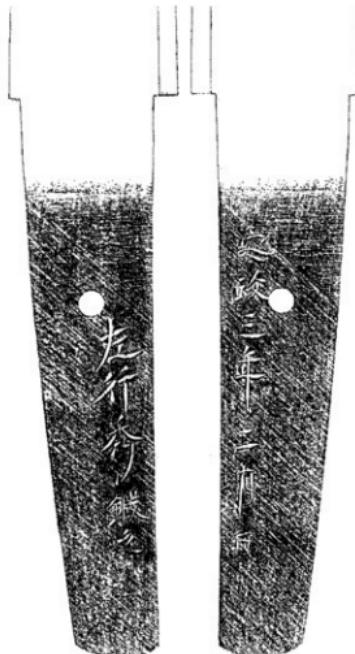
刃文 広直刃、沸深く足入る。

帽子 直ぐに大丸。

茎 生莖、先浅い刃上栗尻、鍔目化粧に大筋違、目釘孔1。

説明 左行秀は、筑前の生まれで、はじめ江戸に出て、弘化4年(1847)土佐に移り、安政五年土佐藩工となる。左文字三十九代の孫と自称した。文久元年(1861)江戸砂村の土佐藩邸に移り、明治3年まで作刀し、その後は廃業し高知に戻り、明治20年没した。行秀の作風は、細かくつんだ小板目の鍛に沸の深いたれ刃を特徴とし、幕末期脇指の名工にあげられる。

この脇指は作風としては行秀に一見近いが、それより時代が下る可能性もあり、銘の書体も検討の余地を残している。



脇指 銘 越中守藤原貞幸

法墨 (単位cm)

刃長 51.4 反り 1.1

元幅 2.9 先幅 2.1

元重 0.7 先重 0.5

鋒長 3.6

形状 鎔造、庵棟、中鋒、反り浅くつく。

鍛 小板目よくつみ、柾目交じる。

刃文 中直刃、小互の目交じり、小足入り、匂深く、沸つく。

帽子 直ぐに大丸に返る。

茎 生茎、先刃上栗尻、鍔目筋違、目釘孔1。

説明 越中守貞幸は尾張名古屋に住した刀工。初二代あり、初代は明暦元年（1655）、寛文8年（1668）の年紀作があり、源姓を名乗り、2代目は藤原姓を銘にきり、元禄9年（1696）の年紀作がある。この脇指は2代の作である。



脇指 銘 長曾祢興里入道虎徹

法墨 (単位cm)

刃長 57.0 反り 1.2

元幅 2.5 先幅 1.8

元重 0.65 先重 0.35

鋒長 3.2

形状 鎔造、庵棟、反り浅く、中鋒。

鍛 板目に流れ肌交じり、やや肌立ち、地沸つき、地景入る。

刃文 のたれ調、互の目交じり、足入り沸つき、物打辺砂流しかかる。

帽子 表すぐに丸、裏のたれ込み尖りごころに返る。

茎 生茎、先栗尻、鍔目浅い勝手下がり、目釘孔1。

説明 長曾祢興里は本国越前で、甲冑師であったが、明暦頃50歳で江戸に出て、刀工に転じた。入道して虎徹と称した。切れ味の良さでは日本刀中もっとも優れていると評価され、江戸時代の刀剣書の多くに大業物と記されている。そのためか偽物也非常に多い。本作も銘の書体に疑問な点があり、また作風も異なっている。

III 文化財保護管理運営事業

1 保護管理運営事業

(1) 国有文化財管理

国指定史跡の（総社）二子山古墳と（天川）二子山古墳は、それぞれ地元の大谷康さんと堀口和四郎さんを国有文化財監視人にお願いし、日常管理を実施した。

また、除草作業や清掃作業等については、地元の前橋市総社地区史跡愛存会（（総社）二子山古墳）と前橋市連合青年団（（天川）二子山古墳）が実施した。

(2) 国・県・市指定文化財管理

市内には、国指定文化財が21件、県指定文化財が40件、市指定文化財が114件あり、合計175件の指定文化財がある。

各文化財には、標柱と説明板を設置し、これらの文化財を訪ねる人々の利便を図っている。

なお、区分については次の通りである。

①指定区分文化財管理

（平成13・4・1）

区分 種別	重要文化財	史跡	天然記念物	無形文化財	民俗文化財	重要美術品	合計	
							件数	割合%
国指定	3	11	1	0	0	6	21	
県指定	34	5	0	0	1	0	40	
市指定	73	18	7	8	8	0	114	
合計	110	34	8	8	9	6	175	

②時代区別文化財

（平成13・4・1）

指定期別 時代別	国指定	県指定	市指定	合計	
				件数	割合%
天 然	1	0	7	8	4.6
原 始	1	0	0	1	0.6
古 代	15	3	17	35	20.0
中 世	2	18	33	53	30.3
近 世	2	15	40	57	32.6
近 代	0	3	1	4	2.2
民 俗	0	1	16	17	9.7
合 計	21	40	114	175	100

(3) 史跡の除草・清掃事業

市内各地区に存在する史跡において、市が直接管理すべきものについて、地元自治会やシルバー人材センター、業者による除草・清掃作業を委託し、史跡が美しく保たれるよう作業を実施した。

実施箇所は、次の表の通りである。

番号	物 件 名	区 分	所 在	面 積
1	龜塚山古墳	市指定史跡	山王町1-28-3	2,484m ²
2	金冠塚古墳	市指定史跡	山王町1-13-3	2,407m ²
3	今井神社古墳	市指定史跡	今井町818	2,312m ²
4	車 橋 門 路	市指定史跡	大手町2-5 3	375m ²
5	天神山古墳	県指定史跡	広瀬町1-27-7	730m ²
6	八幡山古墳	国指定史跡	朝倉町4-9-3 他	15,154m ²
7	前二子山古墳	国指定史跡	西大室町 2659 他	10,956m ²
8	中二子山古墳	国指定史跡	東大室町五料 1501	23,065m ²
9	後二子山古墳	国指定史跡	西大室町内郷 2616 1 他	12,283m ²
10	蛇穴山古墳	国指定史跡	総社町総社 1587-2	1,812m ²
11	宝塔山古墳	国指定史跡	総社町総社1606	2,204m ²
12	女 墓	国指定史跡	東大室町一之 宮町-飯土井町	31,651m ²
13	不二山古墳	市指定史跡	文京町3-151-6	571m ²
14	荒筋富士山古墳	県指定史跡	西大室町813 2	1,350m ²
計				107,354m ²



除草作業の様子

(4) 文化財パトロール

市内を6地区に分け、各地区に1名の文化財保護指導員を委嘱し、指定文化財を中心に文化財パトロールを実施した。

文化財パトロールの結果は、月に1～2回程度文化財保護課に報告があり、指定文化財等を管理していく上で必要な情報を得られた。そのため、日常管理をはじめ緊急事態等に計画的かつ迅速に対応することができた。

各地区的文化財保護指導員は、表の通りである。

地 区	氏 名	住 所	電 話
中 央	福島 守次	天川大島町	
総 社・清里	関口 淳七	総社町鶴社	
東・元 総 社	中島 孝雄	石倉町	
上川瀬・下川瀬	関根 長男	山王町	
南橋・芳賀・桂萱	栗原 秀雄	荒牧町	
城 南	森村伊勢雄	富田町	

(5) 松嶺虫・アメリカシロヒトリ防除

前橋市の管理する史跡地内の松の木に発生する松嶺虫の駆除するために、農政課に協力をして防除薬散布に立ち会った。また、業務委託により、桜の木に発生するアメリカシロヒトリなどの害虫防除を行って、史跡の保全管理を図った。

（松嶺虫の防除）

八幡山古墳・大室古墳群

【一回目】5月30日（火）【二回目】6月13日（火）
（アメリカシロヒトリ防除）

総社二子山古墳・宝塔山古墳・蛇穴山古墳・前二子古墳・中二子古墳・天川二子山古墳

【一回目】6月7日（水）【二回目】8月4日（金）

（6）前橋市蚕糸記念館の管理・運営

明治45年国立蚕糸製造所前橋支所の本館として岩神町に建設された建物で、その後現在地に移築保存が行われた。

開館時は、シルバー人材センターから職員が派遣され、見学者への対応を行っている。また、本館内外の現況及び見学者からの要望等については、派遣職員から情報を得て対応した。

今年度については、5月に第二展示室から雨漏りが発生したため、部分的な瓦の並べ替えと漆喰での補修を行った。なお、現在の屋根の状況（前年度調査済）から、次年度には、屋根全面の修理事業を行う予定である。

また、本館内に養蚕・製糸に関する用具・器械等が展示されていることから、「糸の町」前橋を知る上で一つの学習の場として、市内の小学生をはじめ、市外や県外からの小学生も見学に訪れた。

本年度の入館者は、5,823名であった。



第四展示室の様子

(7) 文化財防火査察

昭和24年1月26日に奈良県法隆寺金堂壁画が焼失したことをきっかけに、毎年実施されている文化財防火データは、今年で47回目になる。

今年も前橋広域消防本部と協力して、下記の指定文化財の立入査察や文化財の防火訓練を行った。

【立入検査】1月25日（木）

前橋市蚕糸記念館、旧アメリカン・ボード宣教師館
妙安寺、東照宮、源英寺、東福寺、臨江閣本館・茶室・別館、神明宮の甲冑（教育プラザ）、李顯寺、円満寺、駒形神社、慈照院、無量寿寺、二宮赤城神社、産泰神社、総社神社、光巖寺、徳藏寺、日輪寺
普勝寺、上泉御藏など合計36か所を査察

【防火訓練】1月26日（金）光巖寺



光巖寺での防火訓練の様子

(8) 文化財収蔵施設の統合及び事務室移転

前橋市の文化財保護行政の管理施設と市内に分散している収蔵施設の一体的な活用・利用を図るために、また施設設備の老朽化による継続的な収蔵の問題解決を含め、かねてより計画されていた養護学校の移転に伴い、三俣町二丁目10-2番地の旧養護学校跡地への施設の移転が、平成12年11月3・4日に行われた。

これにより、管理施設を含め分散していた5ヵ所の収蔵施設（文化財保護課・赤坂収蔵庫・城南収蔵庫・元総社南小学校・中央公民館）が一本化され、文化財や出土品の系統的な管理・収蔵が可能となり、市民への調査成果の還元が図れるとともに文化財保護思想の高揚及び発掘調査の成果のなされることになった。

また、遺物・出土品の一括収蔵による集中管理で、施設内に整理作業室や常設展示コーナーを設けることができたため、発掘調査の整理作業の効率化が図られ、さらには出土品の展示・公開を行うことで、文化財の効率的且つ有効な活用と普及事業の推進が図れることとなった。

2. 整備事業

(1) 歴史散歩道整備事業

平成12年度は、総社歴史散歩道について例年どおり、総社資料館の運営を中心に史跡等の管理を実施した。

城南歴史散歩道計画については、大室史跡公園の進捗状況を勘査しながら、引き続き文化財資源などの基礎調査等を進めている。

①総社資料館の管理・運営

今年もボランティア説明員（総社史跡愛存会）の方々には開館業務及び展示資料の説明等を行ってもらった。冬には館林市の方へ賀詞向上的ために、視察に行き研修してきた。

展示関係では、西倉の民具について全てキャッシュをつけるとともに、展示物の精選を行った。北蔵の照明を増やし、展示室内を以前より明るくした。さらにはパンフレットの増刷（一部改訂）や、総社資料館の印象作成を行った。修繕関係では、西倉雨樋と野外男子便所の修理を行った。

このような展示及び修繕を行っていくことで、なお一層充実した資料館づくりができるものと思われる。今年度の開館日数は、249日で来館者数は4,771人だった。



西倉雨樋修繕

②「第11回秋元歴史まつり」への協力

『特集・大屋敷遺跡』をテーマに、特別展を実施した。総社地区のなかでも大屋敷遺跡からは、副葬品など貴重な遺物が数多く出土している。今回は常設展示を市外の遺跡との係わりなど関連づけを中心に行った。

当団は、武者行列も行われ、総社資料館が休憩場所ということもあって、多くの人が賑わった。



総社資料館で休憩する武者の方々

③総社二子山古墳内の便所撤去及び室外便所の新設

国指定史跡総社二子山古墳の史跡範囲内に、老朽化した汲み取り式の公衆便所があり、史跡の管理上、好ましくない状態にあった。

そこで平成12年度において、これらを解消するため、この便所を撤去し、愛宕山古墳の北側にある総社二子山古墳などの見学者用駐車場用地内に水洗式の公衆便所を新たに設置した。これにより、六中グランド使用者用のものと併せて、見学者の利便の向上を図った。



新設した室外便所

(2) 文化財標柱・説明板設置

平成12年度は、次の指定文化財の標柱・説明板の新設及び撤去を実施した。標柱は御影石、説明板はステンレス材を使用し、耐久性を高めるとともに、説明板には写真を挿入するなどして、より分かり易いものにした。

さらに、説明板に文化財愛護作品コンクールの標語の部の優秀賞以上のものを記載した。

※ 標柱の新設 2基

- ① 市指定重要文化財 臨江閣別館附棟札及び渡り廊下
 - ② 県指定重要文化財 臨江閣本館及び茶室附棟札
- ※ 標柱の撤去 2基
- ① 県指定重要文化財 臨江閣本館・茶室二棟附棟札二枚
 - ② 市指定重要文化財 文政四年天川原分間絵図

※ 説明板の新設 3基

- ① 市指定重要文化財 臨江閣別館附棟札及び渡り廊下
 - ② 県指定重要文化財 臨江閣本館及び茶室附棟札
 - ③ 県指定重要文化財 旧アメリカン・ボード宣教師館
- ※ 説明板の撤去 1基

- ① 市指定重要文化財 文政四年天川原分間絵図



臨江閣に設置した標柱



龍江閣に設置した説明板



これまでの案内表示

(3) 史跡境界杭の設置

官民境界杭の設置が終わった国指定史跡女堀のうち、二之宮女堀沼地区の北側の沼と道路の官官境界の史跡範囲を確定するため、史跡境界杭の設置を行った。



設置した史跡境界杭



立て替えた案内表示

(4) 文化財案内表示の整備

本事業は、県と地元自治体とが協力して昭和55年から57年にかけて国指定文化財及び県指定文化財に係わる道標、コース案内板、導入案内板、標柱、説明板を設置した。本市には、コース案内板が5基、導入案内板が21基、道標が33基、説明板が1基設置されてるが、20年あまりが経過するに至り、風雨等による損傷が目立ってきてる。他市町村の損傷状況も同じであることから、県では地元自治体と協力しながら、本年度から平成16年度までの5年計画で道標の整備を実施する予定になっている。また、道標以外のものについては、平成13年度以降改めて検討する予定となっている。

本年度は、前年度末に実施した文化財案内表示板の現況調査から損傷の度合いや安全性、平成13年度10月に実施される全国史跡整備市町村協議会のエクスカーションコースの見学地までの行程等を考慮し、建て替えを行う必要性の高いものから優先順位をつけた。そして、建て替えにあたっては、設置当初とは住環境や道路状況等が変化しているので、認識し易く通行上の妨げにならない場所や位置を選定するとともに、土地所有者からは、土地借用の承諾を得た上で、本年度は25基の建て替え（新規設置も含む）を行った。



新設した案内表示

3. 普及事業

(1) 第26回前橋市文化財展

- ・テーマ 「くらしから見つめる古墳時代」
 - ・期間 平成12年11月25日(土)~12月11日(月)
 - ・会場 前橋市中央公民館1階ロビー
- 前橋市は、「古墳のまち」といわれるほど、歴史的価値の高い古墳が多くあり、古墳文化の栄えた地域である。今回は古墳時代に視点を当て、当時のくらしをクローズアップした。ここでいうくらしについては、①装身具や衣服、②食物、③住まい、④祭祀の4分野に分け、それぞれの分野から古墳時代を見つめていった。

くらしという身近な内容であったため、市民にとって大変興味深い展示になった。なかには、古代のくらしを見ることで、現代のくらしを見直している来館者もいた。



(2) 第19回文化財普及講座

文化財展開催期間を中心に、文化財展と同じ、「くらしから見つめる古墳時代」をテーマに3回開催した。これらで発掘の重要性、歴史資料の見方、先人の知恵などを学習した。さらには、講座終了後、文化財展を入念に見学する受講生も見受けられた。場所はすべて中央公民館。詳細は下表参照のこと。

テー マ	講 师 名	期 日
古代の農村景観	井上 唯雄	H12.11.25
古代人と鳥のつきあい	若狭 徹	H12.12.2
埴輪の情景	梅澤 重昭	H12.12.9



(3) 第28回前橋市郷土芸能大会

・日時 平成12年11月11日(土)

午後1時~4時30分

・会場 前橋市民文化会館 小ホール

前橋市をはじめとする赤城山南麓には、人々の心のよりどころとして守り育てられてきた伝統ある郷土芸能を受け継がれてきた。これらは、どれも地域に根ざしたものであり、人々の生活の様子を伺い知ることができる。

しかし、近年次第に人々の生活から忘れ去られようとしている。そこで本大会は、郷土芸能に対する人々の理解を深め、地域文化の高揚を図るとともに、郷土芸能の保護・伝承を目的に、昭和48年以来、開催されてきた。公演は、広域圏を含む8団体が郷土芸能を公開した。約600人の来場者があり、多種多様の郷土芸能の競演が好評であった。



○公演および出演団体

郷 土 芸 能 の 名 称	保 存 会 名	所 在 地
總 社 神 社 太々神 楽	同 保 存 会	前橋市元総社町
上 州 馬 子 唄	赤城松前会	勢多郡富士見村
駒 形 上 町 の 技 園	若 獅 子 会	前橋市駒形町
大前田諫訪神社獅子舞	同 保 存 会	勢多郡宮城村
来迎会和讃・平和觀音和讃	前 橋 南 部 詠 歌 和 讖 の 会	前橋市上佐島町
大 胡 神 社 太々神 楽	足 軽 町 太々神 楽 保 存 会	勢多郡大胡町
泉 沢 の 獅 子 舞	泉 沢 町 郷 土 芸 能 保 存 会	前橋市泉沢町
下 長 磐 操 翁 式 三 番 変	同 保 存 会	前橋市下長磯町

(4) 文化財めぐりパンフレットの作成

市内を6地区に分けた文化財めぐりパンフレットのうち、今年度は、「総社・清里地区」「城南地区」の2地区のパンフレットを増刷した。増刷にあたっては、新たに加わった新指定文化財を追加掲載をするとともに、これまでの標語に換え、平成11年度の文化財愛護作品コンクールで入賞した標語を掲載した。このパンフレットは希望する市民に配布するようにしている。

(5) 文化財愛護ポスターの作成

児童生徒の文化財に対する愛護精神を育成するために、文化財愛護作品コンクール（標語と絵画）とその最優秀作品による文化財愛護ポスター作成を交互に隔年実施している。

今年度は、ポスター作成の年として昨年度実施した第9回文化財愛護作品コンクール（標語と絵画）とその最優秀作品による文化財愛護ポスター作成を交互に隔年実施している。ポスターは、市内小・中学校及び公民館などの公共施設等に配布し、文化財に対する啓発を図った。



あるため、総社資料館に関する記事が掲載されず、ガイドブックとして利用するには不便を来していた。

そこで今年度、「総社・元総社の歴史散歩」の改訂版を作成することになり、ガイドブックの名前を「総社・元総社 歴史と口説の散歩道」として刊行した。なお、有償で販売している。

(7) 各種講座・史跡・文化財めぐりへの講師派遣

「それいけ！まえばし出前講座」や公民館の主催する文化財講座、地域の歴史愛好会の学習会への講師として依頼され、本市における文化財行政の現状等について講義を行い、学習活動の手伝いをした。

また、小学校の学習会や社会科見学、自治会の史跡めぐりの講師として現地に赴き、史跡や建造物等の文化財の説明を行うことで、文化財に対する理解を深める支援を行った。

(8) 教材開発事業

学校教育や社会教育の場で活用されることを目的として、学習ビデオを作成した。

今年度は、「総社・元総社の歴史散歩」の冊子を参考に、本地区に点在する文化財をめぐり、文化財の紹介をするとともに、その歴史的価値などにも触れ、小学校高学年以上を対象にしたわかりやすい内容のものを作成した。

(9) 地土芸能映像記録保存

市指定重要無形文化財（郷土芸能）映像記録保存は、次

世代への伝承と市民への普及活動を目的として行われている。道具や演技の方法、しげさ、間合い、一撃一動、声などを細かく記録するため、VTR専門業者に撮影、編集を委託し、永久保存を図っていくものである。本事業は、平成8年度から平成18年度まで行われる予定になっている。

今年度は、前橋萬葉文化保存会「華粧会」に依頼し、12月に諏訪獅子神社境内で撮影が行われた。好天のもと、木遣り・縋振り・梯子乗りの熱心な演技が行われ、映像記録保存にふさわしい完成品となった。

(10) 文化財資料の貸出

実物資料の貸出が8件87点、写真資料が32件228点あった。写真資料の貸出先は出版社が中心であり、実物資料の主な貸出先としては、次の通りである。

貸出資料	貸出先
山王廟寺跡出土土器	发掘された日本列島展実行委員会
鳥取福禪寺遺跡出土石器	岩宿文化資料館
天神山古墳出土埴形土器	明治大学考古学博物館
柳久保遺跡出土繩文土器	群馬県立歴史博物館
縄文土器、埴輪、壺など	前橋市立歴史小学校

(11) 刀剣類の手入れ

本市に寄贈された櫛（前橋藩主松平氏の時代のもの、銘・鑄印）が長い年月を経ていて、錆等が発生しており、櫛の研磨及び白鞘を作製して、文化財資料として良好な状態で保存できるようにした。

(12) 文化財保存団体等への助成

市内各地に残る文化財の管理、修理、復旧その他の保存（説明板や標柱の設置等）、郷土芸能の継承などを行っているに団体に対して、補助金の助成をした。

・総社地区史跡愛存会

・荒砥史談会

・前橋市郷土芸能連絡協議会

・井出上神社

(13) 旧アメリカン・ボード宣教師館移転工事の補助

県指定重要文化財旧アメリカン・ボード宣教師館移転工事が、平成10年度から12年度の3ヶ年事業として県の文化財保存事業に採択され、県、市及び文化財保護振興財団の補助金を得て実施された。平成12年度については、建築移転工事が完成し、今後、資料館としての旧アメリカン・ボードの利活用を検討すべく、共愛学園関係者を中心とした利活用委員会が設立された。



4. 埋蔵文化財発掘調査事業

平成12年度の発掘調査をふりかえって

平成12年度は25遺跡の発掘調査が行われた。発掘調査は、公共開発に伴うものが20遺跡で、民間開発に伴うものが5遺跡である。昨年度に引き続き、工業団地・住宅団地造成に伴う発掘調査及び道路建設関連の発掘調査がその主なものにあたる。

公共開発では、道路改良に伴うものが6遺跡、工業団地造成に伴うものが6遺跡、住宅団地造成に伴うものが3遺跡、区画整理事業に伴うものが2遺跡、施設建設に伴うものが2遺跡、区画整理に伴う確認調査が1遺跡であった。

公共・民間を合わせた調査総面積は、112,234.76m²となつた。本年度より開始された工業団地及び住宅団地造成に伴う発掘調査による調査面積が、その約3分の2を占める。この調査は、来年度も引き続き広い面積の調査が想定される。また、数年来続いている北関東自動車道関連の調査は本年で終了した。

25遺跡から主要な遺跡の概要を以下に記する。

大屋敷遺跡VIは、宅地造成に伴う調査で古墳時代から

の竪穴住居跡22軒や掘立柱建物1棟などが検出された。竪穴住居跡の1軒からは、渋川市の「中筋遺跡」に見られたような土層根が確認された。

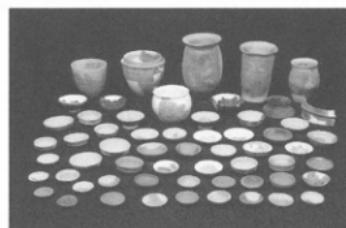
五代南部工業団地造成に伴う発掘調査は、6遺跡約60,000m²の調査を行い、縄文時代前期の住居跡から中世までの住居跡300軒以上、地下式土坑などが検出された。

山王若宮II遺跡は、老人福祉施設増築に伴い、発掘調査が行われた。周辺は広瀬・朝倉古墳群にあたる。本年度の調査では、古墳周堀・小石棚・古墳時代の住居跡3軒が検出された。

ローズタウン遺跡群は、住宅団地造成に先立ち発掘調査が行われた。2遺跡約15,000m²を調査し、縄文時代からの住居跡19軒と掘立柱建物12棟などを検出した。元総社舊海地区区画整理に先立ち、今後重要課題となる国分尼寺の寺域確認調査を実施した。

昨年度中央部の南限の範囲の調査を行い、今年度は南限の東部分と寺域西の範囲の調査を行った。

調査の結果、寺域についての資料と、寺の存続時期にかかる資料を得ることができた。



元総社宅地遺跡出土遺物

平成12年度 埋蔵文化財発掘調査一覧表

番号	遺跡コード	遺跡名	所在地	調査面積m ²	調査原因	調査期間
1	12A - 100	大屋敷遺跡VII (おおやしき)	新社町4-13	536	道路改良	平成12.4.24-平成12.6.23
2	12D - 16	ローズタウン遺跡下日暮遺跡 (ローズタウン)	富田町1781他	7,268	住宅団地造成	平成12.5.24-平成12.11.22
3	12E - 47	ローズタウン遺跡下日暮遺跡 (ローズタウン)	富田町1821他	7,972	住宅団地造成	平成12.12.28-平成13.3.23
4	12G - 18	山王若宮II遺跡 (さんわうぎょう)	山王町126	275	老人福祉施設増築	平成12.8.16-平成12.9.25
5	12A - 101	前郷田町日暮遺跡 (まへこうだにむら)	前郷田町123-1他	1,400	商業施設建築	平成12.11.13-平成12.11.28
6	12A - 110	元総社宅地遺跡 (もとそうしゃ)	元総社町宇野原1882他	14,685	区画整理	平成12.7.11-平成12.11.30
7	12C - 21	五代江戸岸遺跡 (ごだいえど)	五代町942他	12,000	工業団地・住宅団地造成	平成12.7.10-平成12.12.16
8	12C - 23	五代木場I遺跡 (ごだいきば)	五代町1122他	11,785	工業団地・住宅団地造成	平成12.9.1-平成13.3.16
9	12C - 22	五代竹尾遺跡 (ごだいたけお)	五代町1097他	4,880	工業団地・住宅団地造成	平成12.9.1-平成13.3.16
10	12C - 26	五代伊勢崎I遺跡 (ごだいいせさき)	五代町988他	3,800	工業団地・住宅団地造成	平成12.9.1-平成13.3.16
11	12C - 24	五代木場II遺跡 (ごだいきば)	五代町1235-1他	26,400	工業団地・住宅団地造成	平成12.9.1-平成13.3.16
12	12C - 25	五代深堀I遺跡 (ごだいふか)	五代町1064他	1,000	工業団地・住宅団地造成	平成12.9.1-平成13.3.16
13	12G - 7	前田青森遺跡 (まへだ)	東善町123-1	153.76	事務所備置	平成12.9.19-平成12.12.7
14	12G - 1	龜里鉢淵遺跡 (かめりばち)	龜里町886他	11,640	産業技術センター造成	平成12.11.15-平成13.3.23
15	12G - 49	龜里鉢淵II遺跡 (かめりばち)	龜里町95-2他	1,414	産業技術支援施設造成	平成12.11.15-平成13.3.23
16	12A - 89	上野出井古墳群遺跡II (こうげいこくい)	元総社町字小見1730他	254	区画整理	平成12.9.25-平成12.10.27
17	12A - 107	元総社小島遺跡 (もとそうしゃ)	元総社町1562他	2,150	区画整理	平成12.9.1-平成13.3.16
18	12G - 34	横手田IV遺跡 (よこてだ)	横手町370他	1,744	道路改良	平成12.5.16-平成12.9.15
19	12G - 44	蕨丸窯埋入遺跡 (くわまるかき)	房丸町155-2他	295	道路改良	平成12.5.16-平成12.9.22
20	12G - 37	蕨丸窯田II遺跡 (くわまるかき)	房丸町74-1他	540	道路改良	平成12.5.16-平成12.7.18
21	12G - 2	利中II遺跡 (りなか)	鶴光町103-4他	435	道路改良	平成12.7.24-平成12.10.13
22	12G - 47	西田V遺跡 (にしだ)	鶴光町339-1他	1,037	道路改良	平成12.7.24-平成12.10.13
23	12G - 60	西田VI遺跡 (にしだ)	鶴光町336-5他	400	道路改良	平成12.11.30-平成13.1.26
24	12B - 8	青柳宿駅遺跡 (あおやぎゅう)	青柳町474-1他	132	宅地造成	平成12.9.11-平成12.9.14
25	12A - 102	元総社丸山川源遺跡 (もとそうしゃ)	元総社町字小見1732-1	39	鉱場建設	平成12.7.6

平成12年度試掘調査一覧表

番号	所 在 地	開 発 面 積 (m ²)	開 発 原 因	調 査 年 月 日	調 查 結 果
1	上新町字134地	7,787	宅地造成	H12. 4. 13-14	遺構は検出されず。
2	東大原町内地	13,400	大字小字田中地盤整理工事	H12. 4. 25	遺構は検出されず。
3	天川小原町二丁目75地	5,706	特別施設宅地ホーム建設	H12. 4. 27	遺構は検出されず。
4	高井切一丁目5番9地	2,233	アパート建設	H12. 4. 27	遺構は検出されず。
5	力丸町7番1地	4,121	農業用機械車庫等	H12. 5. 19	遺構は検出されず。
6	西大原町217-1	150	無駄地整理	H12. 5. 25	遺構は検出されず。
7	前田町字道上4-1地	2,994	宅地造成	H12. 5. 31	遺構は検出されず。
8	上佐野町内地	2,000	共同開発新規特許工事	H12. 6. 6	遺構は検出されず。
9	小柏町555地	6,500	宅地造成	H12. 6. 19	遺構は検出されず。
10	前田町字門西12番1地	5,645	店舗建設	H12. 6. 29	平安時代の水田跡を検出。(前田町村西遺跡)
11	元新町字181-1地	5,143	近畿新序建設工事	H12. 7. 6	会民時代の集落跡を検出。(元新町村内丘遺跡)
12	香山町215-6	2,500	店舗街建設工事	H12. 8. 2	遺構は検出されず。
13	六井町551-1地	2,318	美合地区建設工事	H12. 8. 3	遺構は検出されず。
14	鶴谷町260-1地	1,013	土木工事	H12. 8. 25	遺構は検出されず。
15	足牧町字道上461-2地	2,080	宅地造成	H12. 8. 26	遺構は検出されず。
16	福原町1地	681	開拓地整備	H12. 8. 26	遺構は検出されず。
17	下新町字長402-1地	2,160	宅地造成	H12. 8. 28	遺構は検出されず。
18	六井町53-1地	1,451	店舗建設	H12. 9. 31	遺構は検出されず。
19	江木町新田120-1地	1,270	土木工事	H12. 9. 19	遺構は検出されず。
20	下新町195-1地	2,561	宅地造成	H12. 9. 19	遺構は検出されず。
21	前田町字門西12番1地	5,045	店舗建設	H12. 10. 11	平安時代の水田跡を検出。(前田町村西遺跡)
22	元新町字門西13番1地	84	近畿新序建設工事	H12. 10. 11	古墳時代の墓跡を検出。(大瀬戸河原原跡西遺跡)
23	大瀬戸二丁目2-1地	3,967	事務所・販売建設	H12. 10. 12	古墳時代の墓跡を検出。(大瀬戸河原原跡西遺跡)
24	下新町字道上463地	1,447	宅地造成	H12. 10. 12	遺構は検出されず。
25	東垂井35番6地	1,633	倉庫建設	H12. 10. 19	遺構は検出されず。
26	鶴田町425-5地	2,000	道跡整備工事	H12. 10. 19	遺構は検出されず。
27	江木町北2丁目1294-7	460	移動無線基地局設置	H12. 11. 9	遺構は検出されず。
28	西垂井65-1地	14,408	倉庫建設	H12. 11. 14-15	平安時代の水田跡を検出。(西垂井6丁目遺跡)
29	石巻町五丁目5-8地	3,215	宅地建設	H12. 11. 29	遺構は検出されず。
30	城東町四丁目89-1地	1,849	宅地整備	H12. 12. 1	遺構は検出されず。
31	東垂井95番第1地	2,128	宅地造成	H12. 12. 6	遺構は検出されず。
32	鬼塚町333-4地	1,767	ダイイケセンター跡跡	H12. 12. 13	遺構は検出されず。
33	笠井町66地	2,952	倉庫建設	H12. 12. 13	遺構は検出されず。
34	六井町字川45-1地	5,418	宅地造成	H12. 12. 14	遺構は検出されず。
35	下新町字下栗1281-4地	1,760	宅地造成	H12. 1. 6	遺構は検出されず。
36	西町(丁)30-10地	833	アパート・建物	H13. 1. 8	遺構は検出されず。
37	鶴田町731地	9,500	宅地造成	H13. 1. 24-26	平安時代の水田跡を検出。(鶴田町上遺跡)
38	下大瀬戸251-1地	2,964	移動無線基地局設置	H13. 1. 31	遺構は検出されず。
39	伏見町内地	900,000	温泉施設地・道路建設	H13. 2. 13-14-22-23	古代行基説院跡・鹿苑寺跡の位置を確認。(白梅館跡、御厨跡)
40	鶴田町字道上76地	1,988	宅地造成	H13. 2. 16	遺構は検出されず。
41	野町422-1地	311	通信施設基地局工事	H13. 3. 6	遺構は検出されず。
42	青柳町504-1地	2,230	店舗建設	H13. 3. 19	平安時代の集落跡及び溝跡を検出。(青柳町前日遺跡)

平成12年度 立会調査一覧表

番号	所 在 地	開 発 面 積 (m ²)	開 発 原 因	調 査 年 月 日	調 查 結 実
1	新社町2401-1	-	個人住宅地替え	H12. 6. 8	遺構・遺物は検出されず
2	天川小原町126-1地	-	西側開拓	H12. 6. 27	遺構・遺物は検出されず
3	山毛町一丁目1地	0.07	櫛柱庵跡	H12. 8. 29	遺構・遺物は検出されず
4	往古町二丁目7-3、7-20	1714	宅地造成	H12. 8. 30	遺構・遺物は検出されず
5	天川小原町一丁目2-1地	-	西側開拓	H12. 9. 18	遺構・遺物は検出されず
6	上唐田町7-6地	4524.47	身体障害者施設新築	H12. 9. 22	遺構・遺物は検出されず
7	古吉二丁目17-10地	-	総合福祉センター・連鎖	H12. 10. 4	遺構・遺物は検出されず
8	川原町419	-	区画整理	H12. 10. 30	遺構・遺物は検出されず
9	岩神町四丁目101-1	2025.65	宅地造成	H12. 11. 15	遺構・遺物は検出されず
10	西大原町251	-	大堂公園造成	H12. 12. 8	遺構は検出されず
11	元経町字塙作1388-1	84	跡跡建設	H12. 12. 26	跡跡の発見込み検出。古墳時代の土器片検出
12	右闇町内地	-	下水道整備	H13. 1. 7	北側の発見込みの位置を確認

平成12年度 埋蔵文化財報告書一覧表

番号	報 告 書 名	通 譯	内	実 行 者	費 用 年 月 日	備 考
1	大堂敷地跡	大堂敷地跡	前橋市埋蔵文化財探査団	平成13. 3. 23	12年度調査	
2	□・△ツクツク遺跡群下田大日1遺跡	ロ・ツクツク遺跡群下田大日1遺跡		×	平成13. 3. 23	△
3	ロ・△ツクツク遺跡群下田大日2遺跡	ロ・ツクツク遺跡群下田大日2遺跡		+	平成13. 3. 23	△
4	山毛町一丁目1遺跡	山毛町一丁目1遺跡		+	平成13. 3. 29	△
5	前田町西口1遺跡	前田町西口1遺跡		+	平成13. 3. 23	△
6	元神町宅地整備	元神町宅地整備	上野郡分厚田作遺跡	+	平成13. 3. 26	△
7	五代1丁屋敷跡	五代1丁屋敷跡	五代1丁屋敷跡	+	平成13. 3. 23	△
8	五代1丁花唐跡・五代木桶1遺跡・五代伊勢宮1遺跡	五代1丁花唐跡・五代木桶1遺跡・五代伊勢宮1遺跡	五代1丁花唐跡・五代木桶1遺跡・五代伊勢宮1遺跡	+	平成13. 3. 23	△
9	五代1丁裏塙跡・五代深堀1遺跡	五代1丁裏塙跡・五代深堀1遺跡	五代1丁裏塙跡・五代深堀1遺跡	+	平成13. 8. 23	△
10	龜井町利澤跡	龜井町利澤跡	龜井町利澤跡	+	平成13. 3. 23	△
11	龜井利澤1遺跡	龜井利澤1遺跡	龜井利澤1遺跡	+	平成13. 3. 23	△
12	前田町1遺跡	前田町1遺跡	前田町1遺跡	+	平成12. 12. 7	△
13	元神町小見廻跡	元神町小見廻跡	元神町小見廻跡	+	平成13. 3. 29	△
14	鹿丸町2遺跡	鹿丸町2遺跡	鹿丸町2遺跡	+	平成13. 3. 29	△
15	梯子田山Y-梯子田仲Y遺跡	梯子田山Y-梯子田仲Y遺跡	梯子田山Y-梯子田仲Y遺跡	+	平成13. 3. 9	△
16	梯子田山Y-梯子田Y遺跡	梯子田山Y-梯子田Y遺跡	梯子田山Y-梯子田Y遺跡	+	平成13. 3. 23	△
17	西田Y遺跡	西田Y遺跡	西田Y遺跡	+	平成13. 3. 29	△
18	市内遺跡発見調査報告書	各内地遺跡	前橋市教育委員会	平成13. 3. 23	△	

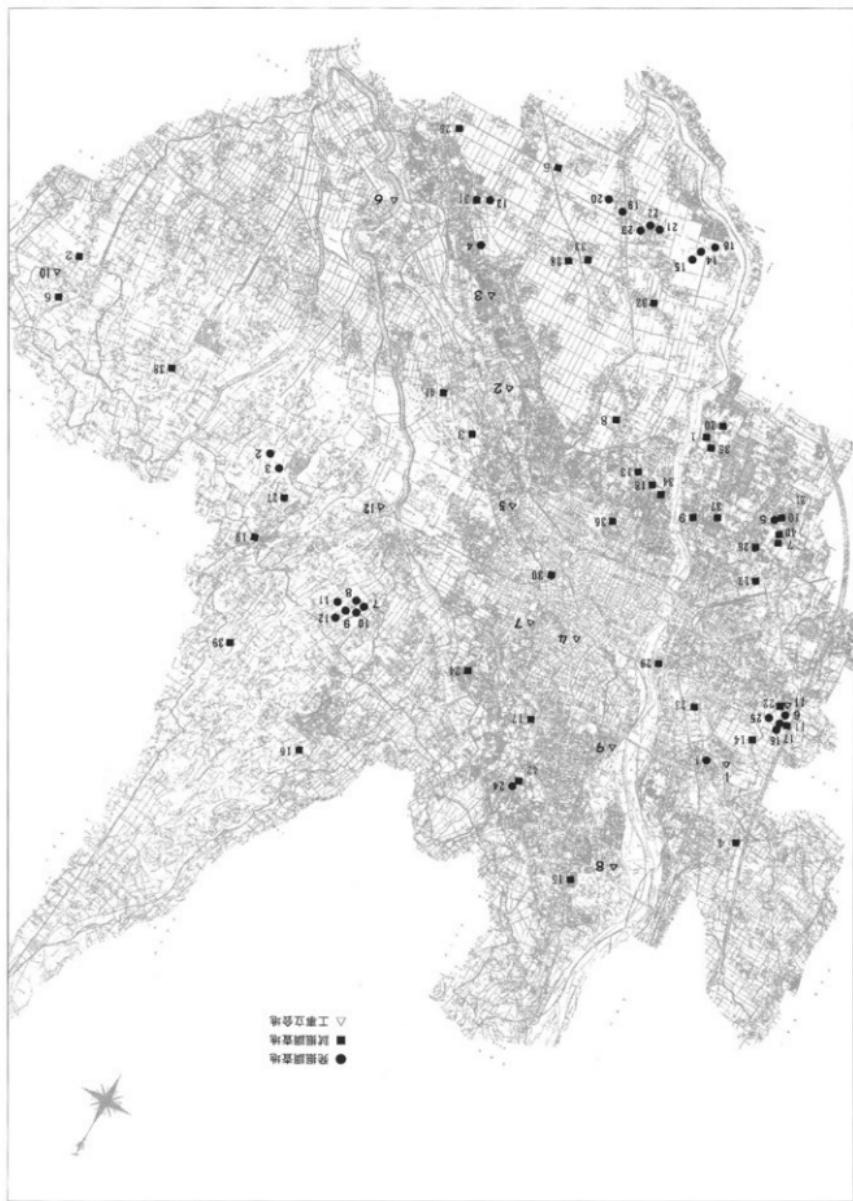


圖 1 地等位圖

1. 大屋敷遺跡VI



遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事業名 宅地造成事業

所在地 前橋市総社町四丁目13番

調査期間 平成12年4月24日～6月23日

担当者 鈴木雅浩・高橋一彦

調査面積 536m²

調査の経緯 平成12年1月に前橋市長・萩原弥志郎（前橋市總務部管財課）から宅地造成事業に伴う埋蔵文化財調査の依頼を受けた。その後、協議・調整を経て、4月に発掘調査の委託契約を締結、発掘調査を開始した。

立地 前橋市街地の北西約3kmに位置する。榛名山東南麓に広がる相馬ヶ原扇状地の端の前橋台地の縁邊である。本遺跡地は、西から南を八幡川、東を天狗岩用水に囲まれた台地に立地し、総社古墳群の南側、推定国府域の北側、山王庵寺の東側にあたる。

調査成果 調査区中央より南側部分においては、現地表面より平均1～2mほど掘り下げるとき縫合面が確認された。検出された遺構は、竪穴住居跡21軒、溝2条、土坑6基であった。住居跡21軒は東側に竪有する住居跡が20軒、南に竪有する住居跡が1軒であった。ほとんどの竪穴住居跡は複雑に重複しており、短期間に立て替えしも考えられ、住居範囲を確定するのに手間取

ることもあった。その中でも特筆すべき遺構としては、住居跡の床一面に粘土状のブロックが検出され、その後の調査で「中筋型屋根」に似た土屋根であることが判明し、この地にも季節により生活する場を住み分けていたことが実証できた。

調査区の中央より北側は大きな攪乱を受けており、遺構の残存状況が非常に悪く、総社砂層（約1.1万年、As-si）を切り込んだ掘立柱建物跡1軒と上部が削平された住居跡1軒を検出できたのみであった。住居跡1軒は東側に竪有するものだった。今までの調査を鑑みると、こうした攪乱がなければ、北側にも多くの遺構が存在していたと思われる。

住居跡からの出土遺物は土器類の壺、甕、瓶、小甕、高杯、須恵器の壺、高台皿、蓋、灰釉高台壺、臼玉や管玉、剣形品などの特殊遺物等がある。

これらから今回の調査で検出された各住居の時期は、6世紀前半から10世紀中頃までの住居跡であると考えられる。

2. ローズタウン遺跡群富田下大日I遺跡



遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事業名 ローズタウン住宅団地造成事業

所在地 前橋市富田町1791番地他

調査期間 平成12年5月24日～11月22日

担当者 平野岳志・高山剛

調査面積 7,268m²

調査の記録 住宅団地造成事業に先立ち、遺跡の記録保存のために住宅団地造成予定期の埋蔵文化財調査の依頼が前橋工業団地造成組合（工業課）よりあり、発掘調査に至った。

立地 前橋市街地より6km東方の赤城山麓傾斜地の南端部に位置する。周辺には西に豊野遺跡、南東に北原遺跡・興訪遺跡・藤西遺跡・荒砥譲西遺跡・富田古墳群・鏡が谷遺跡などがある。

調査成果 調査区は県道前橋・赤堀線江木町交差点から北東に約700mに位置する。ここは、団地造成のために土壤を削り取る部分である。調査は厚さ1mあまりの表土を削削用機械で除去した後、遺構を確認して精査に至った。縄文時代の住居跡1軒、奈良・平安時代にかけての住居跡16軒、掘立柱建物遺構10棟、土坑21基を検出した。縄文時代の住居跡は縄文前期と推定され、閑山式の深鉢を共伴する。昭和30～40年代にかけての土地改良のため削平をうけ、壁

高30～40cmの残存であった。

奈良・平安時代の住居跡は、どれも東壁に竪をもっていた。これらの竪は構造的にかなり進んだ様相をみせていた。竪の構築に当たって床面を一旦深く掘り下げてその上に粗い土石を詰め、その上を床面としているものが多くかった。基盤のローム層がかなり粘性の強い細かい粒子の土層であるため、火を燃やした際に地中から上昇してくる水蒸気を遮断して、火が燃えるのを助けるための除湿構造とみられる。また、焚口袖部に補強のため両側に石や甕をたてたものや、掛けた土器の底部を支えるための支土器を据えたものも検出された。

掘立柱建物遺構は、9棟が2間×2間の規模で、1棟が3間×2間であった。出土遺物がほとんど無かつたため建物の用途や存続時期については明確にならなかった。

出土遺物は、石器・土器類を中心とした151点に及んだ。主なものは、土器については土器・須恵器の壺・甕・須恵器蓋・高台付壺・酸化炎焼成須恵器高台付壺・灰釉高台壺などがある。石器については打製・磨製の石斧・磨石・凹凸・石製巡方・紡錘車などがある。

3. 山王若宮II遺跡



遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事業名 老人保健施設増築工事(民間開発)

所在地 前橋市山王町128

調査期間 平成12年8月18日～9月25日

担当者 小峰 蘭・吉沢 貴

調査面積 275m²

調査の経緯 平成12年7月28日付けで医療法人社団清宮医院より埋蔵文化財発掘調査について依頼を受ける。市教育委員会ではこれを受け内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団に調査実施の通知を行った。

以後、依頼者と調査団との間で協議・調整を行い、8月11日に発掘調査委託契約の締結に至った。現地での調査は8月18日から開始した。

立地 前橋市街地から南東へ約6kmの前橋台地東端、旧利根川河川敷である広瀬川低地帯の右岸に位置する。本遺跡周辺は、前橋市内だけにとどまらず群馬県内でも有数の古墳分布地帯「広瀬古墳群」に属する。当地域の昭和10年古墳調査では、154基の古墳が確認されていたが、その多くは未調査のまま平廃されてしまったのが現状である。現在でもその形をとどめる数少ないものとして、本遺跡北西に位置する金冠塚古墳、文珠山古墳、阿弥陀山古墳がある。

調査の成果 本遺跡では、住居跡、小石棚、

掘立柱建物跡、古墳周堀などを検出した。（住居跡）3軒の整穴式住居跡を検出。壁高20cm前後と残存状況は良好であった。住居内には炉跡を確認、出土遺物の量も多く石田川式土器片を中心に検出。特に2号住居跡内では布留型埴の特徴を持つ土器が出土している。時代的には4世紀前半から半ばにかけての遺構と思われる。

（小石棚）古墳の石室であるが、上部は後世の削平等により消失し確認できたのは底部のみであった。使用された石材は、河原石である。長径が15cm程のやや小振りの石を、最も小さい面積部分を壁面に出すいわゆる「小口積み」の手法を採っている。頭位は東端で幅約30cm、長さは現存値で164cmを測る。埋土や過去の調査実績から6世紀の遺構と思われる。

（掘立柱建物跡）柱穴を6基検出。南北約5m、東西約4m程の小規模なもので、4世紀の住居跡を切っていることや、周辺からは石田川式土器片のみが出土していることなどから4世紀後半の整穴式住居に供するものと見られる。

4. 前箱田村西II遺跡



遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事業名 商業施設建設工事（民間開発）

所在地 前橋市前箱田町123-1他

調査期間 平成12年11月13日～11月28日

担当者 小峰 蘭・吉沢 貴

調査面積 1,400m²

調査の経緯 本遺跡地において、開発事業に先立ち試掘調査依頼を受け6月29日、10月11日の二度にわたり試掘調査を実施した。その結果、A-s-B軽石・水田跡を確認し、本調査実施に向けた協議・調整を開始した。その後、10月31日付けで発掘調査に関する委託契約を締結した。現地での発掘調査は11月13日から行った。

立地 前橋市役所から直線距離にして約3kmの前橋市南西部、前橋台地のほぼ中央で利根川右岸に位置する。標高は約96mで殆ど平坦である。本遺跡周辺では高崎市域にある日高遺跡をはじめ、本市内では稻荷遺跡、五反田遺跡、下新田中冲遺跡など平安時代の水田跡が数多く検出されており、条里制との関わりが解明されつつある。

調査の成果 調査区南側1／3は削平により遺構の残存状況は良好ではなかったが、北側2／3でA-s-B軽石に埋没した跡5本、水田跡は9枚検出した。跡は東西方向3本、南北方向2本、上幅29~55cm、

下幅49~108cm、高さ3cmである。これらの中跡がほぼ直交する。検出した水田跡は、いずれも方形を呈す。ただし、四方で囲まれたものは1枚だけであった。その規模は、南北の跡が約7m、東西の跡が約8mのほぼ正方形に近く、面積にして約56m²と、前橋市内で過去に調査・検出された同時代の水田跡と比べると比較的小さい。本遺跡や周辺遺跡で検出されている平安時代の水田跡は、645年の大化の改新以後推進された律令制に基づく条里制という土地制度下にあったと現在考えられている。今回の調査では条里地割りを確定するには至っていないが、検出した水田跡が、概ね方形を呈しており、それが条里制に起因する一定の規格性を有していること、近隣に残る「市ノ坪」という字名や、本遺跡地が元總社町を中心とした国府境に接していることなどから、条里制が施行されていた可能性は高いと言える。

5. 元総社宅地遺跡



遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事業名 元総社舊海土地区画整理事業
所在地 前橋市元総社字屋敷1882他
調査期間 平成12年7月11日～11月30日
担当者 鈴木 雅浩・高槻 一彦
調査面積 14.685m²
調査の経緯 事業に先立ち、国府閑道の遺構確認調査として前橋市長 萩原弥慈治（前橋市都市整備部区画整理第二課）より、埋蔵文化財認証調査の依頼があり、これを受け委託契約を締結し、調査に入った。

立地 前橋市街地から利根川を隔て、西へ2～3kmの地点に位置する。高燥な台地で、桑畠を主とした畠地として利用されてきた。遺跡地は、県道足門・前橋線の北方にあたり、上野国総社神社は南東隅に位置する。また西方には関越自動車道が南北に走る。南側には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が通り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや商店街、住宅が立ち並び、現状を明らかにすることはできないが、北西から南東へ向かってわずかずつ傾斜している。

調査成果 本確認調査では、第8トレンチ、第13トレンチ、第23トレンチにおいて国府閑道と思われる堀立柱建物跡や土坑、柱穴を検出したが、確固たる国府域、領内部分

の確定には至らなかった。しかし、中世蕭海城闇の堀と考えられる大溝も9～19トレンチで確認された。その他、検出された遺構は、全トレンチ合計で竪穴住居跡15軒、溝跡19条、土坑100基、掘立柱建物跡5軒、井戸跡2基であった。第23トレンチで検出された掘立柱建物跡は、確認できた範囲で東西3本、南北2本で、柱穴間が1.8mの平均値を測り、正確に東西に建立された建物跡と推定される。また、住居跡に関しては、現耕作土より約40cmほど掘り下げるところ間B層下（1108年、As-B）軽石混土層が検出され、その下から遺構面が確認された。土層や出土遺物から国府創建前の古墳時代の住居跡が9軒、国府衰退期にあたる平安時代末期の住居跡が6軒である。住居跡からの出土遺物は土師器の杯、壺、甕、羽釜、須恵器の壺、高台壺、高台皿、壺、甕、灰釉高台皿、高台甕等である。

検出した大溝については、総社砂層（約1.1万年、As-Si）を平均1.5m～2m程深く掘り込んでおり逆台形の形状をしている。土層や古糞団との比較から中世に長尾寺によって築かれた蕭海城の堀に相当するものと考えられる。

6. 五代江戸屋敷遺跡他



遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

- ①五代江戸屋敷遺跡
- ②五代木福I遺跡
- ③五代竹花遺跡
- ④五代伊勢宮I遺跡
- ⑤五代木福II遺跡
- ⑥五代深堀I遺跡



⑤五代江戸屋敷遺跡

事業名 五代南部工業団地及び住宅団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査
所在地 前橋市五代町地内
調査期間 平成12年7月10日～13年3月23日
担当者 齋木一敏・須藤友子
調査面積 59.865m²
調査の経緯 前橋工業団地造成組合（管理者 萩原弥慈治）より、五代南部工業団地及び住宅団地造成に伴う埋蔵文化財調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。過去の周辺の遺跡調査から遺跡があると推測され、前橋工業団地造成組合と前橋市埋蔵文化財発掘調査団の間で契約を締結した。本調査に入る前に既存の遺跡の範囲を確定するため、依頼箇所（約427.600m²）の試掘調査を実施した。その結果、本調査が必要である箇所が約138.000m²あることが分かり、本年度はそのうちの59.865m²について本調査に入ることとなった。

本調査が必要な面積が広大であることと、相手方の工期を考慮し、山武考古学研究所、スナガ環境測設㈱と発掘調査業務委託をし、調査の進捗を図ることとした。

五代江戸屋敷遺跡（12.000m²）は前橋市埋蔵文化財発掘調査団が直営で調査し、五代木福I遺跡・五代竹花遺跡・五代伊勢宮

I遺跡（20.465m²）は山武考古学研究所、五代木福II遺跡・五代深堀I遺跡（27.400m²）はスナガ環境測設㈱が調査することになった。

立地 五代町は前橋市役所から北東の方向約5kmに位置する。隣接する芳賀東部団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査により五代町も一部開発されているが、依頼箇所は田畠が残り醜農も盛んであり、住宅はまばらという状況である。土地の高低差が大きく、高いところは宅地、畑、牧草地となっており、低いところは田畠になっている。

調査成果

五代江戸屋敷遺跡 現耕作土より約35cm掘り下げるところ明黄褐色のローム面が現れる。以前の土地改良により一度剝ぎ、ローム層部分で整地されているため、遺構は整地下の削り残しの部分で確認される。

土層や出土遺物から、古墳時代前期から中世の集落跡と考えられる。検出された遺構は、竪穴住居跡5軒、掘立柱建物跡1軒、方形周溝墓2基、溝跡1条、土坑19基、柱穴8基、井戸跡1基、周溝状遺構1基であった。

古墳時代前期の遺構としては、竪穴住居跡1軒、方形周溝墓2基である。方形周溝墓の周溝より出土した遺物やAS-C純層



②五代木福Ⅰ遺跡



③五代竹花遺跡



④五代伊勢宮Ⅰ遺跡



⑤五代木福Ⅱ遺跡



⑥五代深堀Ⅰ遺跡

ではなく混土層で埋まつた周溝の土層から判断すると4世紀中頃と考えられる。住居跡は出土遺物がなく残存状況が悪いが、炉を伴つた住居跡であること、近接する芳賀東部団地から検出された石田川期の住居跡のデータ（平面形状や主軸方位）と一致することなどから4世紀中頃と判断した。

本遺跡では古墳時代中期が空白になり、古墳時代後期となって再び集落が形成される。前期と比べると住居跡の数がだいぶ多くなる。遺構としては、竪穴住居跡4軒である。ほとんどの跡は東壁より検出され、粘土を構築材として利用していることが分かった。また、袖に土器を埋め込んであるものや石を使っている住居跡もあった。平面形状は、ほとんどが正方形であり、6世紀代の住居跡に限っては規模は大小様々であるが、7世紀に入り規模が画一化されてくる。壁は垂直に落ちている住居跡が多かつた。床面をみると、平坦で堅緻なものが多くみられた。住居跡からは、土師器の長胴甕、台付甕、壺、瓶、高杯、环、器台、須恵器の高杯、壺、坏など多様な土器が出土し、臼玉や土玉なども出土している。この時期、鉄器工具の普及、大陸文化の受容などを背景に周辺地域の水田の開発が行われ、集落が広がつていったものと思われる。

奈良・平安時代の遺構としては、竪穴住居跡12軒、掘立柱建物跡1軒、溝跡1条などが検出されている。古墳後期と比べると、集落が希薄になってくるが、水田開発の技術が向上し、それまで開発できなかつたような低湿地を開発し、それに伴つ集落もより低いところへ移動していったものと考える。

その後のこの地であるが、中世と考える地下式土坑が検出されたり、麦土から中世の古銭や天目茶碗の破片などが検出されていることから、絶えることなく今日まで人々が暮らしこけてきたものと思われる。

五代木福Ⅰ遺跡 検出された遺構は、竪穴住居跡55軒。（縦文時代前期1、古墳時代後期35、奈良・平安時代19）、土坑23基、溝22条、柱穴220基である。

縦文時代前期の住居跡は、埋没土と地山との判別が困難であったが、平面形状は長方形を呈するものと思われる。埋設土器は、周囲にわずかではあるが焼土が確認されていることから炉に使用された可能性が高い。古墳時代後期の住居跡は、比較的規模の大きいものは10cm前後の張り床を施すものが多い。奈良時代の住居跡からは、土玉・臼玉のほか、銅鏡が出土している。

土坑では地下式土坑3基を検出している。また、22号・23号土坑は土葬墓で、北頭位の人骨と渡来鏡が出土している。五代竹花遺跡 検出された遺構は、竪穴住居跡18軒（縦文時代2、古墳時代後期5、奈良・平安時代11）、土坑6基、溝4条、柱穴254基である。

縦文時代の2軒はいずれも中期後半のもので、調査区の北西部において検出された。J-1号住居跡からは埋設土器が、J-2号住居跡からは礫と深鉢を用いた炉址が検出されている。古墳時代後期のH-8号住居跡は大半を攪乱されていたが残存部分から土製小玉が45点集中して出土している。平安時代のH-5・13号住居跡には、櫛状の施設が見られた。

五代伊勢宮Ⅰ遺跡 検出された遺構は、竪穴住居跡6軒（古墳時代後期3、奈良・平安3）、土坑2基、溝1条、柱穴である。

古墳時代後期のH-1号住居跡は、竪向土器に土師器を倒立させ、2個体の土師器甕を連結させて施設させている。H-5号住居跡からは礫石が並べられた状態で出土している。

H-1号溝からは近世陶磁器が出土している。五代木福II遺跡 本遺跡では、縦文時代中期以降の配石遺構や古墳時代から奈良・平安時代にかけての竪穴式住居跡や掘立柱建物跡とその他の溝、土坑、柱穴、井戸、地下式土坑等が検出されている。

検出された遺構のほとんどが竪穴住居跡で、堀り込みが深くや大きい古墳時代のものと、竪方向に比べやや横長で小さい方形の奈良・平安時代のものに大別される。また、ほとんどの住居跡に竪が残っており、その多くは東か北東方向のものであった。支脚に自然石、加工石、長削鍬を使用している竪跡も見られた。

出土遺物は、古墳時代の住居跡からは鬼高杯の杯、長削鍬、奈良・平安時代の住居跡からは杯、高台付の壺、コの字上の甕片などである。その他に、鉄製品の刀子や、鉄鎌、鉄製筋車輪、金具、耳輪、鉄製品の臼玉、紡錘車や鍵、小型甕なども数点検出された。

調査区全体を見ると重複住居跡の検出が多く、長い期間を通して集落を形成し生活の場としていたことがうかがえる。

五代深堀I遺跡 縦文土器類が点数検出されたが遺構の検出ではなく、古墳時代や奈良・平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、柱穴が検出された。

7. 前田Ⅶ遺跡



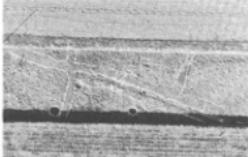
遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

8. 亀里銭面遺跡



遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

9. 亀里銭面II遺跡



遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事業名 民間開発（事務所増築）

所在地 前橋市東善町123-1

調査期間 平成12年9月19日～12月7日

担当者 飯田祐二・眞塙明男（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）・荻野博巳（スナガ環境測設株式会社）

調査面積 153.76m²

調査の経緯 平成12年7月開発業者より、上記事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼を受け実施した。前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導のもとにスナガ環境測設株式会社が実施した。隣接地は平成3年・7年に調査をおこなっている。

立地 前橋市街地の南東約8kmの前橋台地上に位置する。広瀬側低地帯と前橋台地との境を流れる基川が東側を南流する。北は朝倉から広瀬・山王町に及ぶ大古墳群がある。

隣接地の二度の調査では、平安時代の住居跡16軒が検出されている。また、南側の住宅団地造成に伴う調査でも平安時代の住居跡が150軒以上見つかっている。

調査の概要 地表面下1.7mの搅乱を受けた中から平安時代住居跡1軒を検出した。

住居跡は、南北約3m・東西約3.2mの方形を呈する。住居内は貼り床が施され、竈は東壁か南壁に推定されたが搅乱のため検出できなかった。また、住居跡中央に柱穴1基と南東寄りに土坑を1基を検出した。遺物は、覆土中や床面から須恵器の大腹片、高台碗片、土器器の裏片、土師器の灯明皿、灰釉陶器などが出土した。出土した遺物から9世紀末頃の住居跡と考えられる。旧利根川右岸微高地の平安時代の集落と考えられる。

調査成果 発掘調査の結果検出された遺構は、古墳時代から近世に至る水田跡、さく状遺構4基、掘立柱建物跡5棟、井戸1基、土坑7基、溝32条を検出した。出土遺物は縄文土器・石器・剣片・古墳・平安時代の土師器器・須恵器片・中世の陶磁器片・磁石などがある。

全面的にわたって平安時代後期のA s-Bによって覆われた水田跡が検出された。この水田跡と周辺遺跡で検出された事例を合致させると10町の条理区画が想定できた。また、坪区画は109×11mを東西に10面達ねた長地型であることが判明した。その他、A s-Bを掘り込んでつくられた中世の方形区画溝は、出土遺物は無いものの溝内外に配置された掘立柱建物跡の存在は居住域の可能性をうかがわせる。

調査成果 発掘調査の結果、遺構確認面を2面検出した。A s-C混土層下面とA s-D下面である。前者からは主にさく状遺構が、後者からは水田跡が検出された。

この他、奈良・平安→近世に至る遺構として土坑4基、溝11条が確認された。また、遺物については縄文時代の石器のほかに古墳時代前期～近世までの遺物が発見された。

A s-C混土層下の耕作と思われるさく状遺構は、畠跡や畝状遺構として周辺遺跡でも報告されている。A s-B下の水田跡の形状は調査範囲が狭小なため全貌は明らかではないが、東西8m・南北6~8mの方形もしくは長方形の区画であったことが考えられる。調査範囲内の鞋印の南北走行は周辺遺跡で検出されたものとほぼ同様の傾向がみられた。

10. 上野国分尼寺寺域確認調査II



事業名 元総社舊海土地地区画整理事業

所在地 前橋市元総社小見1730他

調査期間 平成12年9月25日～10月27日

担当者 鈴木 雅浩・高橋 一彦

調査面積 254m²

調査の経緯 事業に先立ち、上野国分尼寺寺域確認調査として平成12年3月14日から18日にかけて第一次調査が行われ、その結果、寺域の南限を確認した。平成12年7月24日、文化庁における文化庁、県教委、群馬町教委との協議において、寺域を確定するために寺域の東南隅及び西南隅の調査をするよう指示があり、前橋市長 萩原弥惣治（前橋市都市整備部区画整理第二課）との協議により、埋蔵文化財確認調査の依頼があり、調査に入った。

立地 前橋市街地から利根川を隔て、西へ2～3kmの地点に位置する。高燥な台地で、桑畠を主とした畠地として利用されてきた。遺跡地は、前橋市と群馬町との境に位置しており、西方には間越自動車道が南北に走る。南側には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線、東側には市道大友・石倉線が通る。これらの幹線道路を中心にオフィスビルや商店街、住宅が建ち並び、現状を明らかにすることはできないが、北西から南東へ向かってわずかずつ傾斜している。

調査成果 第一次調査の南限確認を踏まえ、南辺の調査を行った。その結果、築垣内径で166.2m、外側延長で174m内外と推定される。従来、尼寺も2町四方の規模とみられてきたが地形的な制限をうけて、縮小せざるを得なかつたものとみられる。また、今年度の調査部は推定中輪縫からほぼ等距離で、寺域隅部としての蓋然性を高めている。南辺の東西の屈曲点の内側を結んだ線のズレは3.5'で、国分僧寺の企画線の度数とほぼ共通している。このことから、その建設は、西南に棟出された1号住居跡の時期が8世紀第三四半期とみられることが、僧寺より遡ることは確実とみられる。一方、尼寺の衰滅の時期については、西南部の築垣が崩壊した後に、つくられたとみられる住居跡からすると、少なくとも10世紀第四四半期ころにはすでに築垣は平夷状態に近かったとみられる。更に第一次調査の道路部分でも、10世紀第一四半期ころに道路を破壊して住居を構築していたことからも、尼寺周辺部は少なくとも10世紀初頭ころまでにはかなり破壊が進行していたことが推定される。



遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

11. 元総社小見遺跡



事業名 元総社舊海土地地区画整理事業

所在地 前橋市元総社町地内

調査期間 平成13年2月9日～3月16日

担当者 眞塙明男・飯田祐二（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）・長谷川一郎（山武考古学研究所）

調査面積 2,150m²

調査の経緯 元総社舊海土地地区画整理事業に先立ち事業計画地内の西側にあたる道路部分について区画整理二課より発掘調査の依頼を受け実施した。前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導のもとに山武考古学研究所が実施した。

立地 前橋市の西端を南東流する牛池川左岸に位置し、西に群馬町が隣接する。本遺跡の北約2.5kmには国指定史跡である総社二子山古墳などの総社古墳群が存在する。また、周辺は国府域として古代上野における政治・文化の中心であり、国分寺や国分尼寺、山王庵寺なども至近に位置している。

調査の概要 依頼を受けた道路部分を8区の調査区に分け随時調査を実施した。いずれの調査区も遺構が甚しく重複しており、切り合い関係の解明を念頭におきながら調査を進めた。その結果、住居跡93軒、掘立

柱建物2棟他を検出した。奈良・平安時代の住居跡は当地域の特徴を示すかのように国分寺・国分尼寺で葺かれていたと思われる瓦を礫の袖・天井・煙道部分に転用しており、特に5区の住居跡からは石瓶が出土していて、多数出土している瓦とともに国分寺に隣接する本遺跡の特徴を示している。7区では2間×3間の柱建物跡が検出されており、また本調査区中央北寄りで東西方向に走行する道路遺構が検出されている。本遺跡の北西約500mには上野国分寺跡があり、同寺院との関連が今後の課題となる。8区でも多数の住居跡が検出されており、他の調査区に比べ羽蓋を伴う住居跡の比率が高い傾向がみられた。



遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

12. 北関東自動車道側道調査



・横手湯田V遺跡



・徳丸高堰IV遺跡



・徳丸仲田IV遺跡



13. 都市計画道路 横手鶴光路線道路改良事業に伴う調査



遺跡位置図 (前橋市規形図2万分の1)

事業名 北関東自動車道側道改良事業
担当者 小峰 謙・吉沢 貴 (前橋市埋蔵文化財発掘調査団)・常深 尚・野平伸一・長谷川秀久 (山武考古学研究所)

調査の経緯 北関東自動車道建設に伴った北側側道及び南側側道の道路改良事業間連の埋蔵文化財発掘調査で、前橋市では平成9年度より本市北関東自動車道対策室と協議・調整を重ね実施している。

本年度依頼された調査箇所は、西は横手

町から東は新井町までと広範囲に渡った。西から順に、横手湯田V遺跡・徳丸高堰IV遺跡・徳丸仲田IV遺跡・上増田島遺跡・萩原VI遺跡の5遺跡である。うち上増田島遺跡と萩原VI遺跡については、試掘調査を行った結果遺構が確認できなかつたため調査不要となった。調査については、徳丸高堰IV遺跡を前橋市埋蔵文化財発掘調査団が主体となって実施し、横手湯田V遺跡及び徳丸仲田IV遺跡については民間調査会社である山武考古学研究所に委託し行った。

所在地 前橋市横手町370他

調査期間 平成12年5月16日～9月15日

調査面積 1,744m²

立地 前橋市南西部の前橋台地上にあり、前橋駅の南約5.7kmに位置する。標高は約80mで北西から南東方向にやや傾斜する。西約350mには利根川が流れる。

遺構 中世の水田跡をはじめとして、A s - B下水田跡、F P下水田跡、F A下水田

跡と時代をおおって検出。特にA s - B下水田跡は残存状況が良好で条里水田の一面を垣間見ることができます。古墳時代初期遺構確認面では、溝や土坑を中心に多数検出している。遺物は土器類の甕片が多量に出土したほか、調査区内で検出された流路では御描き文のある弥生時代後半と思われる土器が見つかっている。

所在地 前橋市房丸町155-2他

調査期間 平成12年5月16日～9月22日

調査面積 295m²

立地 前橋市役所の南東約6kmの前橋台地上に位置する。標高は75～80mで概ね平坦な土地である。調査区の西には端尾川が南流する。前橋南部農耕地域の重要な用水である。

遺構 検出された遺構は、中・近世の溝や土坑である。周辺遺跡で近世館跡が検出されていることから、それに伴った土地区画の溝なども確認できる。出土遺物に関しては、陶磁器類が最も多く、その他、内耳結焼や内耳鍋などの内耳土器や擂り鉢等の軟質陶器、砥石も数多く出土している。

所在地 前橋市徳丸町74-1他

調査期間 平成12年5月16日～7月18日

調査面積 540m²

立地 前橋市南西部に広がる前橋台地上の東端付近に位置する。北東約2.9kmのところにJR駒形駅がある。調査区西に端尾川が南流する田園地帯である。標高約75mの平坦な土地。

遺構 平安時代ではA s - B軽石下の水田跡を検出している。畦畔4条が確認された。遺構に伴うものではないが須恵器の破片が出土。古墳時代では溝8条が検出されている。出土した遺物は、木製品が数点と土師器片である。

事業名 都市計画道路横手鶴光路線道路改良事業

担当者 小峰 謙・吉沢 貴 (前橋市埋蔵文化財発掘調査団)・権田友寿 (スナガ環境測定株式会社)

調査の経緯 本遺跡の調査は都市計画道路横手鶴光路線道路改良事業に伴うものである。前橋市教育委員会では本市北関東自動車道対策室と協議・調整を重ね、平成12年6月12日付けで発掘調査委託契約を締結した。本年度調査依頼箇所は西は横手町から

端尾川西の鶴光路町までで、遺跡数で4遺跡である。そのうち最も西に位置する横手湯田V遺跡については試掘調査の結果遺構を確認できなかつたため調査不要となった。遺跡は西から村中II遺跡・西田V遺跡・西田VI遺跡で、村中II及び西田V遺跡については前橋市埋蔵文化財発掘調査団が調査主体となり、西田VI遺跡については民間調査会社のスナガ環境測定株式会社に調査委託した。

・村中II遺跡



・西田V遺跡



・西田VI遺跡



14. ローズタウン遺跡群富田下大日II遺跡



遺跡位置図(前橋市現形図2万分の1)

所在地 前橋市鶴光路町103-4他

調査期間 平成12年7月24日～10月13日

調査面積 435m²

立地 前橋市役所南東約7km、利根川左岸の前橋台地上に位置する。周辺は水田の広がる田園地帯で、標高約78mの平坦な土地である。

遺構 A s - B 軽石の純層も一部では確認

できたが、後世の削平を受けており遺構の残存状況は良好とは言えない。畦畔は検出されず、僅かに耕作痕を残す程度であった。また、A s - B 軽石混土で埋まつた溝を4条検出した。出土遺物は、内耳土器や陶磁器片である。

所在地 前橋市鶴光路町339-1他

調査期間 平成12年7月24日～10月13日

調査面積 1.037m²

立地 前橋市役所南東約7kmの前橋台地上に位置する。県道堀玉村線に面しており、道を挟んだ西側は村中II遺跡である。標高は約78mである。

遺構 A区、B区共にA s - B 軽石の純層

を確認したが明瞭な畦畔は検出できなかつた。畦畔の痕跡と見られる僅かな高まりをもって水田面の区画を確認できた。ピットも數点で検出されたが掘立柱建物跡を構成するには至っていない。

所在地 前橋市鶴光路町256-5他

調査期間 平成12年11月30日～13年1月26日

調査面積 400m²

立地 前橋市役所南東約7kmの前橋台地上に位置する。周辺は、北関東自動車道をはじめ道路建設などの開発に伴い発掘調査が多く実施されている。

遺構 調査区は西からA区、B区、C区とした。すべての調査区からA s - B 軽石に

覆われた平安時代の水田跡が検出された。特にB区では畦畔を1本検出。その他溝も数条確認されている。A区の2面目では、9世紀頃の礎を持つ住居跡1軒を検出した。出土遺物は土師器片、須恵器片点数である。

事 約 名 ローズタウン住宅団地造成事業

所在 地 前橋市富田町1821番地 他

調査期間 平成12年12月28日～13年3月23日

担当者 平野岳志・高山剛(前橋市埋蔵文化財発掘調査団)

金子正人・板垣宏(スナガ環境測設株式会社)

調査面積 7.972m²

調査の経緯 ローズタウン住宅団地造成事業のため、前橋工業団地造成組合より埋蔵文化財発掘調査の依頼があり、前橋市教育委員会をとおして前橋市埋蔵文化財発掘調査団が受託したが、調査の都合上、スナガ環境測設株式会社に業務を委託した。

立地 富田下大日II遺跡は、前橋市街地より北東へ約7kmに位置し、赤城南麓丘陵地の先端部にある。

北東には大胡町が隣接し、本遺跡地の西側には萱野団地遺跡がある。

調査経過 調査区が谷地を挟むように東と西に分かれていることから、横幅100mのグリッドに組みA区からD区の四区に分けてその中を4m×4mのグリッドに組んで調査を実施した。

調査結果 調査区西側では縄文時代の住居跡1軒、奈良・平安時代の住居跡3軒、掘立柱建物跡2軒、竪穴式遺構1軒、土坑14基・ピット50基、風倒木痕7箇所を検出した。縄文時代の住居跡は橢円形状を呈し、北壁寄りに埋設土器を伴う炉を検出された。他には北壁に礎を有する住居跡が1軒確認できた。掘立柱建物跡2軒とも2間×2間のもので軸方向が豊穴住居跡と概ね一致する。西側調査区の竪穴式遺構では礎は確認できず、遺物もほとんど検出されていない。風倒木痕は西側調査区では6箇所、東側調査区では1箇所検出した。東側調査区では、土器片が散乱していたものの、はっきりとした遺構は確認できなかつた。

15. 緊急調査

青柳宿前遺跡



遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事業名 民間開発（宅地造成）
所在地 前橋市青柳町宿面474-1
調査期間 平成12年9月11日～9月14日
担当者 飯田祐二・眞塩明男
調査面積 132m²
調査の経緯 平成12年2月開発業者より、上記事業に伴う埋蔵文化財確認調査依頼を受け同月22日試掘調査を実施した。調査の結果、一部で平安時代の住居跡を確認した。その後の協議の結果、保存できない部分について記録保存のための発掘調査を前橋市教育委員会が実施した。

立地 前橋市街地の北約3kmに位置する。本遺跡地は、旧利根川の河川域の広瀬川低地帯と赤城南麓の白川扇状地の接点にあたる。周辺には、平安時代の住居跡などを検出した青柳寄原遺跡がある。

調査の概要 平安時代の住居跡2軒を検出した。完壊したものは、南北3.6m、東西3mの長方形で、南東隅に竪をもつ。もう1軒は、竪の煙道部のみの検出であった。

元総社小見内II遺跡



遺跡位置図（前橋市現形図2万分の1）

事業名 鉄塔建設に伴う発掘調査
所在地 前橋市元総社町小見内1732-1
調査期間 平成12年7月6日
担当者 真塩明男・飯田祐二
調査面積 39m²
調査の経緯 鉄塔の建て替えに伴う事前の試掘調査を行ったところ、奈良時代の住居跡等を検出したため、同日鋤削を広げ、調査対象部分の調査を行った。
立地 前橋市街地より西へ約3kmの榛名山東南麓の牛池川(染谷川)に挟まれた台地上に

位置する。国分尼寺推定南限が北75mに位置する。

遺跡の概要 奈良時代の住居跡1軒と溝1条、道路状遺構と推定できる堅微な面を溝脇東側で検出した。道路状遺構は、国分尼寺との関係が推測される。住居跡は東南に竪をもつもので、一辻3mの正方形を呈すると推定され、8世紀前半と考えられる坪が出土した。また、南側トレーニングの壁から単井重井五井文の軒丸瓦が出土した。

16. 市内遺跡発掘調査

事業名 埋蔵文化財発掘調査事業（市内遺跡発掘調査事業）

所在地 前橋市内
調査期間 平成12年4月2日～13年3月30日
担当者 真塩明男・飯田祐二
調査面積 2,870m²

調査の概要 平成12年度は42件の確認調査を実施した。そのうち9カ所で遺跡が確認された。9遺跡のうち2遺跡は現状保存が不可能のため、12年度中に発掘調査を実施し記録保存を行った。3遺跡は確認された遺跡の取扱いについて現在協議中であり、4遺跡は保存協議を締結し現状保存された。

調査の結果 前箱田町で行った試掘調査では平安時代の水田跡が検出された。（前箱田村西II遺跡）元総社町で行われた試掘調査では奈良時代の住居跡が検出された。（元総社小見内II遺跡）元総社町で行われた試掘調査では古墳時代の溝跡が検出された。（草作IV遺跡）大渡町

で行われた試掘調査では古墳時代の住居跡が検出された。（大渡小河原跡西遺跡）西善町で行った試掘調査では平安時代の水田跡が検出された。（西善町丁田遺跡）箱田町で行った試掘調査では平安時代の水田跡が検出された。（箱田上境遺跡）荻窪町で行った試掘調査では奈良～平安時代の住居跡と縄文時代の遺物包含層が検出された。（荻窪鶴塚遺跡、荻窪東爪遺跡）青柳町で行った試掘調査では平安時代の住居跡と溝跡が検出された。（青柳宿前II遺跡）

発掘調査 元総社小見内II遺跡は平成12年度に前橋市教育委員会で緊急的に発掘調査が行われた。前箱田村西II遺跡は平成12年度に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で発掘調査が行われた。箱田上境遺跡、荻窪鶴塚遺跡、荻窪東爪遺跡は平成13年度に発掘調査予定である。

保存協議 草作IV遺跡、大渡小河原跡西遺跡、西善町丁田遺跡、青柳宿前II遺跡は遺跡保護層が確保され現状保存されることとなつた。

17. 県調査会調査

前橋市内の開発に伴う埋蔵文化財発掘調査で、県教育委員会を事務局として調査会を設立し、市教育委員会も役員として参加しているもの。発掘調査は民間調査機関に委託している。

平成12年度は、県道表町石倉線の改良工事に伴い、石

倉下宅地遺跡及び紅雲村東遺跡の調査が実施された。

石倉下宅地遺跡の調査では、古墳時代の集落跡・平安時代の集落跡・近世の井戸・近代の井戸などが検出された。紅雲村東遺跡では、平安時代の住居跡・水田跡・中世の土坑・溝・ピットなどが検出されている。

山王廃寺等調査委員会

山王廃寺等調査委員会は次のような趣旨により平成12年度に設立された。「山王廃寺等（山王廃寺とそれに密接な関連をもつ周辺の遺跡）を調査し、保存と整備の方策をたてる事に關し、万全を期するため、山王廃寺等調査委員会を設立する。」

組織としては、外部専門委員6名のほか幹事6名、指導2名、顧問1名で構成されている。事務局は文化財保護課に置いている。

平成12年度は委員会を平成12年11月22日（水）に開催し、山王廃寺及び周辺の関連遺跡の資料を配布し、現在の調査状況及び今後の検討課題についての協議を実施した。

その他、山王廃寺に係わることとして、山王廃寺出土塑像片等の保存処理が行われた。平成12年度から14年度までの3か年での国・県補助金による保存処理事業が採択となり、12年度は118点の遺物の保存処理を元興寺文化財研究所に委託した。

また、2000年度の新発見考古速報展には塑像片ほか37点が出品され、全国7カ所の博物館で展示が行われた。



委員会風景

5. 遺跡台帳整備事業

事業名 遺跡台帳整備事業

事業期間 平成12年4月1日～13年3月31日

担当者 飯田祐二

(1) 遺跡台帳整備・資料整備

年間を通じて市内での発掘調査や各種確認調査の資料を整備し、それを元にして遺跡の資料を台帳化している。その資料を各種開発の対応に使用している。

出土した土器などの遺物資料の整理では、大室神社所蔵の大室古墳出土の鉄器類実測を行った。また、芳賀北部団地遺跡出土の土器で活用可能なものの復元を行った。

(2) 小中学校資料活用支援

学校への資料貸し出しは、天川小学校・下川端小学校・桃瀬小学校・荒牧小学校・荒子小学校・二之宮小学校の6校に行った。資料展示支援としては、前年度から継続している荒牧小学校の「あらまき博物館」の整備と敷島小学校の社会科資料室整備を行った。これは、13年度以降も継続する予定で準備をしている。



敷島小学校「社会科資料室」展示の様子

(3) 普及パンフレットの作成

平成11年度発掘調査の成果を市民向けにまとめたパンフレット「前橋の遺跡」を作成し、配布した。11年度は、山王庵寺等V遺跡から出土した塑像・塑壁片などを中心に8遺跡の概要をまとめた。



(4) 遺跡測量

重要史跡等の測量を行っている。12年度は、市内では数少なくなった前方後円墳で、6世紀後半に造られた西大室町にある伊勢山古墳の平面測量を行った。



伊勢山古墳実測図

(5) 遺物の公開・展示

文化財保護課が11月に三俣町に移転し、課内に展示スペースができた。そこで、課の玄関に発掘現場出土の遺物・展示室に前橋天神山古墳出土の遺物レプリカを展示し解説を行った。

(6) 緊急雇用対策による資料整備

群馬県緊急地域雇用特別基金の交付を受け、発掘調査資料の整理を行った。2年計画の完了年として実施され、整理は雇用対策という観点から民間業者へ委託した。

整理は、これまでの発掘調査で出土した約1万箱の発掘調査資料（土器・石器などの遺物）の昨年処理した残りの三分の二を再整理するものである。再整理の内容は、遺物の報告書掲載の有無によるものと、掲載されていなくても活用可能であるかという観点から整理し直すものである。そして、遺物を活用台帳化し、報告書とともに検索可能な状況にするものである。これによって、遺物・資料の検索・貸し出しが以前より容易になった。あわせて写真・図面・報告書も再整理、デジタル化した。

(7) 山王庵寺出土遺物保存処理

東国最古の寺院とされる山王庵寺の平成11年度の調査で出土した塑像（土でつくられた仏像）、塑壁（土でつくられた建物壁材）などは、第一級の資料と評価されている。遺物の状態が脆弱であり、そのままでは崩壊・剥落の危険性があるため、国・県の補助金を受け専門業者による保存処理を実施することとした。12年度は塑像片（神将像・腕・台座）、飾り金具、釘など115点を処理した。処理内容は、クリーニング、樹脂含浸・樹脂塗布による剥落止め強化、防錆処理、一部復元の作業である。この保存処理は、3年計画で実施する予定である。

6. 大室公園史跡整備事業

(1) 大室公園史跡整備委員会

大室公園史跡整備事業は、第一に国指定史跡大室4古墳（前・中・後・小二子古墳）の保存整備、第二に赤城型民家と古代住居の整備、第三に大室古墳資料館の建設の3つの事業に大別される。事業の推進に当たっては、平成元年度より学識経験者を中心に組織された大室公園史跡整備委員会において、整備に向けての検討を十分に行なった上で実施してきている。

また、詳しい内容については別記したが、委員会開催と共に、その下で各事業ごとのより専門的、実務的な事業検討を担当する専門部会（古墳整備部会、民家変遷部会、資料館部会）についても、それぞれの事業の進捗に応じて、部会開催あるいは部会間の連絡調整を図りながら事業に当たってきた。

○平成12年度大室公園史跡整備委員会の経緯

平12. 6. 23…文化庁への事業報告

- ・平成12年度事業予定、並びに13年度計画に向けての事前確認

8月中旬…委員会委員への事業報告

- ・前二子古墳石室保存修理に向けての事前調査結果、並びに検討課題確認

8. 25…平成12年度第1回大室公園史跡整備委員会開催（通算14回目）

- ・前二子古墳石室保存修理方法についての検討

2. 6…大室公園史跡整備事業に係わる部会長会議開催

2. 21…平成12年度第2回大室公園史跡整備委員会開催（通算15回目）



委員会風景

(2) 古墳整備部会

平成9年度より国庫補助事業として着手した国指定史跡大室4古墳整備の4年目に当たる今年度は、中二子古墳整備（平成10年度～12年度）の墳丘保護盛土・植栽を中心とした最終年次工事、並びに前二子古墳整備（平成11年度～13年度）の2年次事業として前方部を中心とした整備工事、さらに小二子古墳整備（平成12年度～13年

度）の初年度事業として実施設計の作成を行った。

また、前二子古墳整備における石室保存修理に向けての詳細データを得る目的で、石室西側に存在する坑道の発掘調査を実施した。

○中二子古墳整備工事概要

【墳丘整備】
・表土すき取り保護盛土後、種子混合客土による吹付植栽

【中堤整備】
・復元中堤上（長さ約90m）に埴輪レブリカの設置
・見学用園路及び階段の設置

【周堀整備】
・堀底にパークマルチングの敷設、ならびに東側から南側にかけての低湿箇所に湿性植物の植栽

【説明施設】
・図解施設、解説施設の設置



中二子古墳中堤埴輪列設置整備状況

○前二子古墳石室西側の坑道発掘調査概要

古くより、前二子古墳石室の西方にかなり大規模な坑道が存在することが伝えられていたが、正確な記録は残されておらず、この度の古墳整備事業推進に当たり、特に石室の保存修理に必要な資料を得る目的で発掘調査を実施した。

坑道に関する唯一の手がかりである石室廻門部の西方約7mの下段面に確認されていた僅みにトレーナーを入れた結果、坑道の天井部が陥没したことによって生じた封土の断層が明瞭に確認された。さらに、陥没部より後内部中央に向かってトレーナーを広げるとろくに坑道の空洞部分が露見した。内部は手前にごく少量の崩落土の堆積がみられたが、掘られた時の状態をほぼそのまま残しており、奥への進入が十分に可能な状況であった。

坑道は径約1.5mの扁円形で、入口より墳丘中心に向かって5mほど直進し、そこから鈍角に石室方向へ折れて3mほど東進し、最先端部分は石室石積みの裏込め部分を崩して玄室西壁の裏面まで到達しており、隙間から石室内が透視できる状態であった。崩された状況から、裏込めはかまぼこ状を呈し、壁石との隙間に小割石を充填し、その外側に径60～70cmの平石を被覆するように並べ、さらにその上面を粘土で覆っていたことが判明した。その幅は確認できる部分で最大約3mほどであったが、基部は確認されておらず、さらに大きくなると推定され

る。



坑道図面

○前二子古墳整備工事概要

【墳丘整備】

- ・埴輪樹木の間伐
- ・前方部及び後円部北側の表土すき取り
- ・保護盛土後、上段部笹植栽、下段部客土吹き付け植栽

【外堤整備】

- ・表土すき取り盛土修形後、客土吹付植栽
- ・外堤上園路部分にパーク舗装敷設

【周堀整備】

- ・堀底に溜まった土砂すき取り後、雨水浸透用の採石層敷設



前二子古墳整備状況

○小二子古墳整備実施設計



小二子古墳実施設計平面図

○平成12年度古墳整備部会の経緯

平12. 8. 7～9. 21…前二子古墳石室保存修理に向けての補足調査として石室西側に開けられた坑道の発掘調査を実施

8. 11…第1回部会開催

12. 18…第2回部会開催

平13. 1. 30…第3回部会開催

(3) 資料館部会

大室古墳資料館（仮称）建設に向けて、これまでに完了している展示に関する基本設計に引き続き、大室公園史跡整備事業事務局を中心に、展示実施設計、及び資料館家屋の基本設計に向けて準備作業を実施するとともに、大室4古墳発掘調査、及び大室公園整備地内の施設建設に先行する発掘調査（内堀遺跡群発掘調査）等によって得られた膨大な出土遺物資料の未整理分について、将来的な資料館への収蔵を踏まえて平成9年度より開始した整理作業を継続した。

(4) 赤城型民家園運営及び古代住居建設

○民家園運営

平成12年度の民家園の見学者数は、前年度より約2割程度増加し約5,800名を数えた。これは、大室古墳群の整備進展に伴う見学者の増加と連動していると考えられる。見学者名簿には、県内はもとより、近隣の諸県からの見学者の記載も少なからず確認できた。

民家園運営活動状況としては、前年度に引き続き、南に広がる畑を利用して、地元の大室小学校児童と民家保存会の会員とでサツマイモを収穫したり、児童が学校で育てたサルビアの苗を園路脇に植栽し環境整備に努める等、地域に密着した活動が定着してきている。

○古代住居建設

古代住居エリアにおいて、平成10年度より今年度までの3年計画で、古代住居3棟の建設を進めできている。前年度までと同様、市内の児童生徒に呼びかけ、建設作業への参加者を募り、文化財保護課職員指導の下、古墳時代の人々の生活の様子を理解する体験学習の一環として、竪穴式住居、高床式建物に引き続き、今年度は平地式住居を完成させた。



平地式住居

あとがき

21世紀を迎えたが、少子高齢化・国際化・高度情報化・価値観の多様化等社会は急速に変化しつつあります。

一方、私たちの日常生活は遠い祖先からのさまざまな積み重ねがあって今日に至っています。この間、技術の進歩や社会のしくみの変革があって便利で豊かな生活へと移り変わつてきましたが、家庭生活の変化、地域社会の変貌、環境問題等新たな課題に直面していることも事実です。

現代人の生活は日々慌ただしく過ぎていますが、先人の遺産である文化財に接し、「もの」の奥に潜んだ知恵や技術に触れたり、当時の社会や人々の心に思いを致したりすることは、考え方の幅を広げ、豊かな心をもつことにつながるのではないかでしょうか。

文化財は保護するだけでなく活用することが大切であるともいわれています。国民共通の財産である文化財が、多くの方々に活用され豊かな日常生活の実現に寄与することを願っています。

平成12年度も文化財の調査・整備・保存・活用等さまざまな活動を展開してまいりました。その概要をまとめた本書が多くの方々に読まれ活用されることを切望しております。

平成13年9月

文化財保護課長 石川 克博

平成12年度

前橋市文化財調査委員

阿久津宗二

梅澤 重昭

近藤 義雄

松島 荣治

安盛 博

平成12年度

文化財保護課職員

文化財保護課長

石川 克博

文化財保護課長補佐

伊藤 茂男

埋蔵文化財係長

井野 誠一

主 査

渡邊 三男

"

丸山 正家

"

羽鳥 三郎

"

大澤 雅之

"

横山 浩之

"

貞塙 欣一

"

梅山 雅夫

主 任

古屋 秀登

"

鈴木 雅浩

"

平野 岳志

"

齊木 一敏

"

飯田 祐二

"

高橋 一彦

"

高橋 亨

主 事

小鳴 尚

"

高山 刚

"

小峰 篤

発掘・文化財担当（嘱託）

眞塙 明男

嘱託員

井上 唯雄

"

吉沢 貴

平成12年度文化財調査報告書第31集

平成13年9月20日印刷

平成13年9月28日発行

発 行 前橋市教育委員会文化財保護課

前橋市三俣町2-10-2

印 刷 上海印刷工業株式会社

